

群馬県前橋市
熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡

清里前原住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は北に赤城山、西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とした県都であります。北から南に貫流する利根川の消流は「水と緑と詩の町」を潤し、かつては「糸の町」として養蚕製糸で栄えてきました。今人口28万余を擁し生涯教育都市を目指し、教育文化・商工業の調和のある「豊かで、すばらしい社会を築く、街づくり」を進めています。市では工業団地、住宅団地の造成を通じ、福祉、教育、文化、環境等の整備、拡充の施策のひとつとして、清里前原住宅団地造成事業を前橋工業団地造成組合で進めています。この事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、前橋市埋蔵文化財発掘調査団のもとで、発掘調査を実施したものです。

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡（清里前原住宅団地造成地）の所在する青梨子町は前橋市中心市街地から西へ6km程にあり、利根川右岸前橋台地に榛名山火山斜面が被り、裾野になるこの地は桑畠の多い緑豊かな農村地帯であります。

周辺地域には古来より国府や国分寺がおかれ、古代上野国の政治・文化の中心地域とされる元總社地区が3km程東南にあります。

発掘調査は住宅団地造成地について実施し、平成元年度調査の「熊野谷Ⅱ遺跡」では平安期の住居跡4軒、平成2年度調査の「熊野谷Ⅲ遺跡」は平安期の住居跡16軒・方形遺構1ヶ所・溝遺構4条・土坑2ヶ所の他、多数の土師器・須恵器など遺物を検出し、記録保存をいたしました。

この調査報告書を刊行するにあたり、前橋工業団地造成組合を中心とする関係機関各方面の多くの方々の御理解と御協力を得たことに対し厚く御礼申し上げます。

平成 3 年 3 月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 遠藤 次也

例 言

I 本書は前橋工業団地造成組合の清里前原住宅団地造成工事にさきがけて実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

II 熊野谷Ⅱ遺跡（略称IA-42）

1 発掘調査は前橋工業団地造成組合（管理者清水一郎）の委託を受け、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施した。

2 調査担当者 遠藤和夫（前橋市埋蔵文化財発掘調査団 発掘調査係員）

園部守央（	“	”	”
井野修一（	“	”	”
鈴木雅浩（	“	”	”
新保一美（	“	”	”

3 調査面積 1,000 m²

4 所在地 前橋市青梨子町字熊野谷地内

5 調査期間 発掘 平成元年6月2日～平成元年6月26日

整理 平成2年8月21日～平成3年3月25日

（整理業務はスナガ環境測設株式会社が実施した。）

III 熊野谷Ⅲ遺跡（略称IA-42）

1 発掘調査は立合者 前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長遠藤次也）の立ち合いのもとに、委託者 前橋工業団地造成組合（管理者清水一郎）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役須永眞弘 前橋市肖柳町211-1）が実施した。

2 調査担当者 園部守央（前橋市埋蔵文化財発掘調査団 発掘調査係員）

荻野博巳（スナガ環境測設株式会社 調査員）

3 調査面積 4,000 m²

4 所在地 前橋市青梨子町1219-1番地 外地内

5 調査期間 発掘 平成2年6月1日～平成2年8月21日

整理 平成2年8月21日～平成3年3月25日

6 発掘調査の主な作業分担

調査指揮指導を荻野博巳（熊野谷Ⅲ遺跡調査事務所長）が当り、測量・調査計画を須永眞弘（測量士 第52614号）が行い、測量を板垣宏（測量課長）・勝田貞幸（調査助役）・柿沢高幸（測量主任）・佐々木智恵子・角田朱美が当った。遺構・遺物の写真撮影を荻野博巳・勝

田貞幸が、発掘調査の安全管理・石島正二（総務役）、作業事務・柴崎信江が担当した。

- IV 本書は調査団の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財調査部（専務取締役兼部長 金子正人）が作成に当り、執筆・荻野博巳、校正・金子正人、編集・須永真弘、文章消費・須永薰子、測量図書の整理校正・勝田貞幸、遺物の復元・実測・計測を佐々木智恵子、角田朱美、遺構トレース・小林裕美、写真製版・鈴木赳夫、内業事務・須永豊が担当した。
- V 調査に協力を戴きました前橋工業団地造成組合始め、地元の方々及び調査並びに整理に際して指導、助言を賜った各方面の方々に深甚なる感謝を申し上げます。
- VI 出土遺物は前橋市教育委員会に保管する。

VII 調査に参加した方々（いろは順）

石川サワ子	橋本登代美	小野沢はつ江	桙沢美穂	吉田真理子
高橋初代	田中善四郎	辻みつる	中川類子	内山恵美子
山崎勘治	深沢千代	小池英子	佐藤佳子	峰岸あや子
関根初江				

凡 例

1 遺構名・略称

遺構名と略称は次の通りとした。

土師器住居跡 H 溝遺構 W 土坑 D ピット P

2 実測図の縮尺

位置図S=1/7000 全体図 S=1/400 住居跡S=1/60 溝遺構S=1/60
土坑 S=1/60 窓 S=1/30 遺物実測図 S=1/1・1/3・1/5

3挿入図

国土地理院発行の5万分の1「前橋」を使用した。

4 遺跡の位置の基準

基準点 国土地理院三角点及水準点を照合済み

A-0 地点 第IX系 座標値 x=45.596.000m y=-73.216.000m
 水準点 BM₁ H=152.000m
 BM₂ H=151.500m
 等高線 10 cm
 グリッド 4 m 間隔

5 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」による。

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 調査の経緯と概要	1
1 調査の経緯	1
2 発掘調査の経過と概要	1
3 標準堆積土層	4
第2章 位置と環境と周辺遺跡	6
第3章 遺構と遺物	7
1 熊野谷Ⅱ遺跡（住居跡）	7
2 熊野谷Ⅲ遺跡	9
(1) 住居跡	9
(2) 方形遺構	16
(3) 溝遺構	16
(4) 土坑	18
第4章 まとめ	19
出土遺物観察表 熊野谷Ⅱ遺跡	22
熊野谷Ⅲ遺跡	23
遺構実測図 熊野谷Ⅱ遺跡	第5～10図
熊野谷Ⅲ遺跡	第11～31図
遺物実測図 熊野谷Ⅱ遺跡	図1～2
熊野谷Ⅲ遺跡	図3～6
図版 熊野谷Ⅱ遺跡	図版1～4
熊野谷Ⅲ遺跡	図版5～17
位置図 (S=1:7000)	第32図
全体平面図 (S=1:400)	第32図

第1章 調査の経緯と概要

1 調査の経緯

前橋市は「豊かで、すばらしい社会を築く、街づくり」の施策のひとつとして、工業団地及びこれに附隨する住宅団地の造成を通じ、福祉、教育、文化、環境等の整備、拡充を目的に昭和35年「前橋工業団地造成組合」を群馬県と組織し、以来、工業団地造成事業を進めていますが、この一環の事業として、昭和63年度清里前原住宅団地造成事業が実施されることになり、これに伴う埋蔵文化財発掘調査業務について、前橋工業団地造成組合（管理者 清水一郎）と前橋市教育委員会の協議により、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が昭和63年6月1日～昭和63年11月15日で発掘調査終了、調査整理を平成元年2月28日に完了し「熊野谷遺跡」として報告されている。引き続き平成元年度「熊野谷Ⅱ遺跡」、平成2年度「熊野谷Ⅲ遺跡」の発掘調査を実施したものであります。

2 発掘調査の経過と概要

1) 熊野谷Ⅱ遺跡

前橋市教育委員会と前橋工業団地造成組合で協議のうえ、面積約 1,000 m²について、発掘調査を実施することになった。平成元年度事業は平成元年6月2日から6月26日を発掘調査期間とし、調査整理期間は平成2年8月21日から平成3年3月25日とする日程で作業に着手した。

(1) 遺跡の名称・略称

当遺跡は地区別コードにより清里地区であることから、略称IA-42とし、出土遺物の注記、製作図面の略称として記入した。

(2) 作業の状況

発掘作業は表土排除をバックホウ0.7(m³)を使用して作業を進め、引き続きジョレン精査・プラン確認等の作業を進めた。

発掘調査日誌抄

平成元年6月2日 幹線道路部分の重機掘削・排土部分のプラン確認等の開始

5日 グリッド杭測設開始

8日 簡易トイレ設置・機材搬入完了

12日 遺構振り下げ・竈セクション線引き・発掘前全景・遺物出土状況

セクションの写真撮影・セクション図作成開始

- 13日 セクション図注記開始
14日 平面図作成開始
17日 遺跡全体図作成
22日 繩文試掘セクション写真撮影
23日 床掘り方開始
26日 調査区全体写真撮影・図面作成作業完了・調査完了

2) 熊野谷Ⅲ遺跡

前橋市教育委員会と前橋工業団地造成組合で協議のうえ、面積約 4,000 m²について、発掘調査を実施することになった。調査は平成2年度事業として、平成2年6月1日から平成2年8月20日を発掘調査の期間とし、平成2年8月21日から平成3年3月25日を調査整理の期間とする日程で作業に着手した。

(1) 遺跡の名称・略称

当遺跡は地区別コードにより清里地区であることから、略称2A-42とし、出土遺物の注記、製作図面の略称として記入した。

(2) 発掘調査区域

調査対象区域は4m単位の縦線（東西の線）と横線（南北の線）を調査グリッドとした。調査グリッドの縦線には北から南へアルファベット（AからYまで文字）を付け、横線には西から東へ算用数字（1・2・3・・・）を付けて表した。4mグリッドの呼び方は北・西の交点の文字で呼ぶこととした。

(3) 測量杭

グリッド交点杭測量は公共座標から取り付け、水準値は公共水準のBMから測設した。

(4) 実測原図の用紙と原図の縮尺

実測図の原図はポリエスチルシートA-2判を用い、温度・湿度・少々の汚れ・破損などに耐えられるようにした。

原図の縮尺

遺跡全体図 S=1:200 住居跡 S=1:20 方形遺構 S=1:20

溝造構 S=1:20 土 坑 S=1:20 棚 S=1:10

(5) 遺構と遺物の調査

遺構は、使用面と掘り方面について出来る限り両面を調査し遺構埋没状況、遺構構築状況を観察記録した。

遺物は個々に、観察表に記録した。包含層の遺物は、調査グリッド毎に取り上げた。

(6) 作業状況

発掘作業は既設木造住宅撤去作業の完了を受けて、平成 2 年 6 月 19 日から 8 月 20 日の予定で着手し、表土排除はバックホウ 0.7(m³) を使用して作業を進め、引き続きジョレン精査・プラン確認の作業を進めた。

発掘調査日誌抄

平成 2 年 6 月 19 日 作業事務所設置・機材等の搬入などの作業に着手

21日 重機にて表土掘削作業の開始・事務所設置・機材搬入完了

ジョレン掛け・プラン確認作業・遺構ナンバーつけ開始

30日 水道設備工事・水準点 (B.M.) ・基準点座標杭設置完了

遺跡全体平面測量 (S=1:200) 開始

7 月 5 日 遺構遺物出土状況写真撮影開始・地断の確認 (セクションの線引き) ・グリッド杭測設開始・重機にて P₄面まで掘削・搬出作業の開始・セクションの写真撮影開始・遺構平面測量 (S=1:20)

住居跡平面測量 (S=1:20) 開始

7 月 11 日 溝跡発掘作業開始

28日 溝跡完掘・出土状況写真撮影

31日 空中写真撮影

8 月 1 日 東側調査区の発掘残土を西側調査完了区に重機・大型ダンプで天地返しを開始

4 日 ジョレン掛け・住居跡 6 軒プラン確認作業・住居跡発掘開始・地断の確認 (セクション線引き) ・グリッド杭測設開始・遺構平面測量 (S=1:20) ・住居跡平面測量 (S=1:20) 開始
出土状況写真撮影

20日 完掘写真完了・空中写真撮影・園部発掘調査係員来跡あり確認す

21日 調査区の埋め戻し・作業事務所・機材等搬出

- 整 理 作 業 8月21日 遺物の洗浄注記・測量図面の整理作業開始・記録写真の整理・住居跡の原稿執筆作業開始
- 29日 記録写真の整理・住居跡の原稿執筆開始・遺物の接合作業開始
- 30日 測量図の製版カメラによる縮小作業を行う
- 12月6日 住居跡床面積の図上計測を行う
- 13日 接合遺物の石膏入れ作業開始
- 25日 遺物実測図化作業開始
- 26日 遺物実測図の製版カメラによる1/3縮小作業開始
- 28日 住居跡平面図・断面図の製版カメラによる1/3縮小作業開始
- 平成3年1月10日 報告書原稿執筆・編集作業開始
- 14日 溝状遺構の原稿執筆作業開始
- 21日 遺跡全体図の作成作業開始
- 3月8日 遺物写真撮影作業を行う
- 24日 報告書原稿執筆・編集作業完了
- 25日 報告書原稿印刷

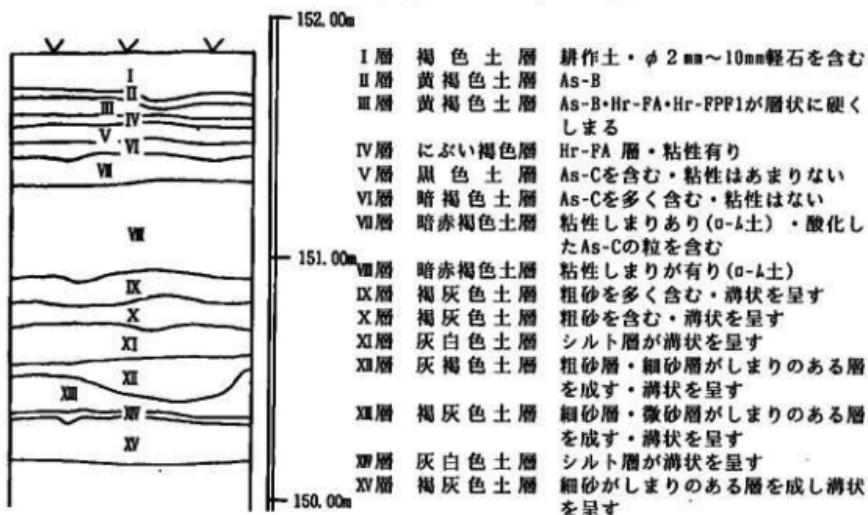
3 標 準 堆 積 土 層

第 1 図 熊野谷 II 遺 跡

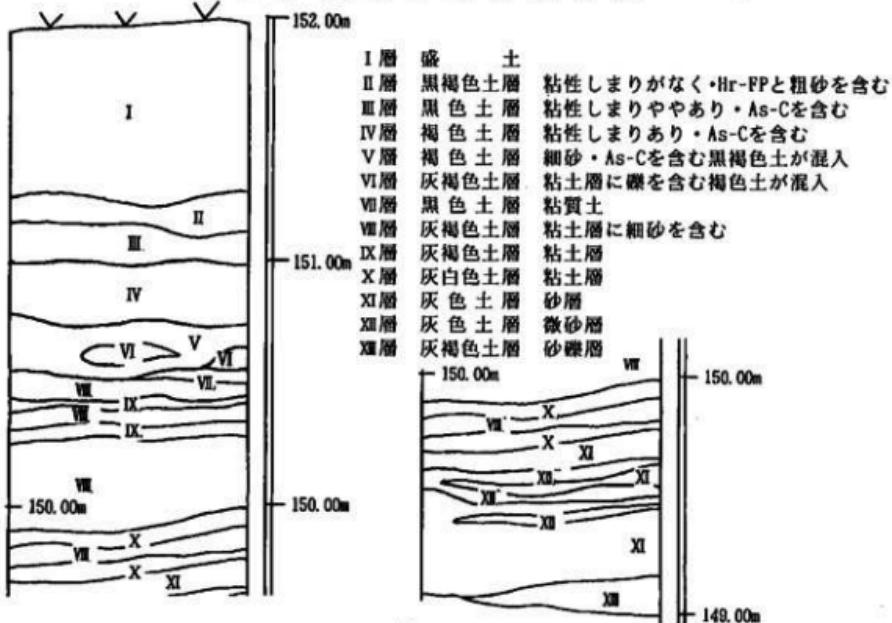


(註) As-浅間山・Hr-榛名山

第2図 熊野谷Ⅲ遺跡A区



第3図 熊野谷Ⅲ遺跡B区



第2章 位置と環境と周辺遺跡

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡の所在する前橋市青梨子町は前橋市の中心市街地から北西約6Kmにある。主要地方道前橋・箕郷線が200m程南を東西に通り、西に向って1.2Km程行けば南北に通る主要地方道渋川・高崎線に交差する。また東へ0.5Km程に関越自動車道が南北に通り、これに平行してこれより東1.0Km程にJR上越線に当る。上越線の群馬総社駅は当遺跡から約2.5Kmにある。榛名山東南麓に広がるなだらかな斜面上に当遺跡がある。榛名火山斜面の火砕岩層が前橋台地を形成する泥流堆積物上に被るよう地層を形成している。

この斜面を流下する八幡川と牛池川によって開拓され、八幡川右岸台地は断崖となり高低差が大きく、土地が乾燥するため、農作物は畑作によるものが多く、特に養蚕飼育が盛んに行なわれ江戸末期から明治初期には座織製糸器が考案され、養蚕飼育方法などが改良されるなど農民の生業は養蚕を中心の地域でもある。

第 4 図 周辺 遺跡 の 位 置 図 S=1:50,000



- ①熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡 ②若宮遺跡 ③稻荷山古墳 ④二子山古墳
 ⑤愛宕山古墳 ⑥遠見山古墳 ⑦蛇穴山古墳 ⑧宝塔山古墳 ⑨村東遺跡
 ⑩山王庵寺跡 ⑪國分寺中間地域遺跡 ⑫國府推定地域 ⑬寺田遺跡
 ⑭昌樂寺廻向遺跡 ⑮清里陣場遺跡

第3章 遺構と遺物

1 熊野谷Ⅱ遺跡

調査は土師器住居跡4軒を確認した。

1号住居跡（第5図、図版1）

調査区中央部東寄りのP-23・24からQ-23・24グリッドに位置する。覆土は粘性をあまり帯びず細砂を含む黒褐色土・鈍い赤褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.2m・短軸（東西方向）2.3mの楕円形を呈す。主軸方向はN-8°-Eを測る。確認面から18~20cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床は、ほぼ平坦で面積は6.14m²を測る。

竈は東壁の南寄りに位置し壁外に張り出して構築され、主軸方向（θ）=N-115°-Eを測る。竈の覆土は、粘性を帯びず焼土粒・細砂を含む褐色土・黒褐色土が堆積している。

竈の寸法は最大幅(a)=53cm・全長(b)=50cm・炊き口部幅(h)=45cmを測る。燃焼部は床面より7cm程掘り込まれている。

遺物は土師器壺、須恵器壺片などの他、縄文土器の小片を検出した。

2号住居跡（第6図、図版1）

調査区中央部北寄りのN-22からO-21・22グリッドに位置する。覆土は粘性をあまり帯びずHr-PP・C軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.9m・短軸（東西方向）2.2mの楕円形を呈す。主軸方向はN-14°-Eを測る。確認面から21~24cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床は、ほぼ平坦で面積は5.12m²を測る。ピット、壁溝は確認されなかった。

竈は東壁の南寄りに位置し壁外に張り出して構築され、主軸方向（θ）=N-113°-Eを測る。

覆土は細砂を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。炊き口付近に竈の構築材と思われる粘土塊が見られる。

竈の寸法は全長(b)=60cmを測る。燃焼部は床面より7cm程掘り込まれている。

遺物は土師器壺、須恵器壺、土師質塊などの他、刀子、鉄鏃を検出した。

3号住居跡（第7図、図版2）

調査区中央部のP-22・23グリッドに位置する。覆土はC軽石をわずか含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.9m・短軸（東西方向）2.4mの隅丸方形を呈す。主軸方向はN-6°-Eを測る。確認面から3~4cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床は、やや凹凸がある。面積は6.48m²を測る。

ピット、壁溝は確認されなかった。

竈は東壁のやや南寄りに位置し壁外に張り出して構築され、主軸方向（θ）=N-102°-Eを測る。覆土は焼土、炭化物を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は最大幅(a)=60cm・全長(b)=44cm・炊き口部幅(h)=55cmを測る。燃焼部は床面より9cm程掘り込まれている。

遺物はわずか土師器片、須恵器片などを検出した。

4号住居跡（第8・9・10図、図版2）

調査区南部のR-21・22からS-21・22グリッドに位置する。覆土は二次堆積のB軽石とC軽石・焼土・炭化物を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）4.8m・短軸（東西方向）4.0mの隅丸方形を呈す。主軸方向はN-2°-Eを測る。確認面から45~50cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。

床はほぼ平坦である。面積は13.95m²を測る。壁溝は北西隅から東方向へ長1.0m程・南方向へ長1.5m程・幅14~20cm・床面から深4~8cmを測る。

ピットは床面から3ヶ所確認した。

（註）深：確認面からの深さ

ピット等の名称	形状寸法cm				所在・その他
	形状	長径	短径	深	
P-1	楕円	44	32	21	東壁竈の左側
P-2	楕円	62	54	22	南西コーナー
P-3	楕円	100	80	20	西壁際中央

上記の他に、厚さ10cm程の貼り床下（掘り方）から径25cm（円形）・深25cmのピット4ヶ所や床下土坑と思われる楕円状の長径70cm・短径50cm・深23cmのもの、楕円で長径110cm・短径88cm・深27cmのもの、楕円で長径70cm・短径60cm・深20cmのものが確認されている。

竈は東壁の中央やや南よりに位置し、住居跡内に竈の袖が構築され、高さ30cm、厚み8~13cm程の袖石など竈構築材5個を検出している。燃焼部は良く焼け、残存状況もよい。

主軸方向（θ）=N-92°-Eを測る。覆土は焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=160cm・炊き口部幅(h)=46cm・煙道部立ち上がり角度(σ)=20°を測る。炊き口から燃焼部にかけて床面より5cm程掘り込まれている。

遺物は須恵器壺・塊、土師質塊・羽釜などの破片の他、貨幣、石斧を検出した。

2 熊野谷Ⅲ遺跡

調査は土師器住居跡16軒（重複遺構1軒・竈が確認できないもの3軒・覆土が搅乱されプランだけのもの1軒・溝遺構と重複し一部不明のもの2軒、計7軒を含む。）・方形遺構1ヶ所・溝遺構4条・土坑2ヶ所を確認した。

(1) 住居跡

1号住居跡（第11図、図版6）

調査区北西部のB-4グリッドに位置する。地表面から35cm程排土した確認面にある。覆土はC軽石を含む暗褐色土が堆積している。住居跡（H-1）の北側一部が調査区域外にあり、西側1/3程は、調査区西域を南北に走る1号溝（W-1）と重複して確認した。重複の新旧関係はW-1によって住居跡が切られていることから当住居跡が古い遺構である。

住居跡の形状は東西方向の実測値2.0mで以西はW-1と重複する。南北方向の実測値2.7mで以北は調査区域外にあり不明、確認した部分から推定して隅丸方形を呈するものと思われる。確認面から10~16cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床面は平坦だが大半が搅乱されている。計測できる面積は5.46m²である。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁に位置する。主軸方向（θ）=N-88°-Eを測る。覆土は焼土ブロック・灰などを含む褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長（b）=190cm・炊き口部幅（h）=90cmを測る。

遺物は須恵器环・盤・蓋片・塊片など数点を検出した。

2号住居跡（第12図、図版6）

調査区北西部のD-2・3グリッドに位置する。地表面から40cm程排土した確認面にある。覆土はC軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.7m・短軸（東西方向）2.6mを測り、隅丸方形を呈す。確認面から6cm程掘り込んで床面に達する。壁は直に立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で面積6.08m²を測る。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は南壁にあったものと思われるが1号土坑（D-1）と重複して不明である。土坑際の床面や土坑の側面・底付近からわずか焼土を確認している。新旧関係は竈をD-1が取り込んで構築

したと考えられ、当住居跡が旧いものと思われる。

遺物は床面から土師器の小破片数点を検出した。

3号住居跡（第13図、図版6）

調査区西北部のC-4からD-4グリッドに位置する。地表面から38cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。当住居跡の西側大半が1号溝（W-1）と重複して確認した。重複の新旧関係はW-1によって住居跡が掘り切られたと考えられ、この場所の溝部分から出土遺物がない等から住居跡が旧いと考えられる。

住居跡の形状は南北方向4.6mを測り、東西方向の実測値1.4mで以西はW-1に重複している。住居跡の残り状況から隅丸方形を呈するものと思われる。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。やや凹凸がある。床面積は6.13m²を測る。壁は直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は確認できなかった。

遺物は須恵器蓋・高台付塊・壺・大甕、土師器甕片・坏片など多数検出している。

4号住居跡（第14・15図、図版6・7）

調査区中央西寄りのH-5からI-5グリッドに位置する。地表面から54cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。当住居跡の西側大半が1号溝（W-1）と重複して確認した。重複の新旧関係はW-1によって住居跡が掘り切られたもので当住居跡が旧いと考えられる。

住居跡の形状は南北方向3.6mを測り、東西方向の実測値2.0mで以西はW-1に重複している。住居跡の残り状況から隅丸方形を呈するものと思われる。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。比較的平坦で、面積は9.57m²を測る。壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピットは東壁際の竈南から楕円状の長径54cm・短径45cm・深48cmを確認した。

遺物は土師器甕・壺・須恵器甕・塊など多数検出している。出土遺物も少なく、焼土も確認できなかつた。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央に位置し、全体に壁外に張り出して構築され、炊き口付近の床を6cm程高くしている。竈の主軸方向（θ）=N-88°-Eを測る。覆土は締まりのある褐色土・暗褐色土が堆積している。竈の寸法は全長（b）=70cm・煙道部長（f）=34cm・炊き口部幅（h）=40cm・煙道部立ち上がり角度（σ）=20°を測る。燃焼部は床面より5cm程掘り込まれている。

遺物は須恵器蓋・甕片・塊片、土師器甕片などを検出した。

5号住居跡（第16・17図、図版7）

調査区南側中央付近のO-7・8グリッドに位置する。地表面から113cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.7m・短軸（東西方向）2.8mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-4°-Bを測る。

床面は確認面から20cm程掘り込んで達する。床面は平坦で面積は9.09m²を測る。壁は直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、やや両袖が内側に張り出している。主軸方向（θ）=N-100°-Bを測る。覆土は焼土粒・炭化物を含む暗褐色土が堆積している。竈の両袖から燃焼部内にかけて構築材と思われる径12~20cm程の石が数個出土している。

竈の寸法は全長（b）=85cm・炊き口部幅（h）=35cmを測る。炊き口部から燃焼部にかけて床面より12cm程掘り下げられている。

遺物は竈から須恵器坏・床面から土師質羽釜・高台付塊、須恵器高台付塊など多数検出した。

6号住居跡（第18図、図版7）

調査区南側中央付近のP-7からQ-7グリッドに位置する。地表面から97cm程排土した確認面にある。覆土は粘性を帯びてわずかHr-FP・C軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.5m・短軸（東西方向）3.0mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-18°-Eを測る。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で良く締まっている。面積は9.07m²を測る。壁は直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し壁外に構築している。主軸方向（θ）=N-112°-Eを測る。覆土は焼土粒・C軽石をわずか含む暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長（b）=80cm・炊き口部幅（h）=74cm・煙道部立ち上がり角度（σ）=40°を測る。炊き口部は床面より8cm程掘り下げられている。

遺物は須恵器高台付塊・甕片・塊片・土師器片などを検出した。

7号住居跡（第19図、図版8）

調査区南側中央付近のP-8からQ-8グリッドに位置する。地表面から100cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（東西方向）3.5m・短軸（南北方向）2.4mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-105°-Eを測る。

床面は確認面から28cm程掘り込んで達する。床面は平坦で良く締まり、面積は7.17m²を測る。

壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピットは北東コーナー壁際から円状の径48cm・深24cmを確認した。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し壁外に構築している。主軸方向 (θ)=N-176°-Wを測る。覆土は焼土粒・C軽石をわずか含む暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長 (b)=90cm・炊き口部幅 (h)=45cm・煙道部立ち上がり角度 (σ)=45°を測る。焼き口部は床面より10cm程掘り下げられている。

遺物は土師質壺・甕片、須恵器甕片・羽釜片などを検出した。

8号住居跡（第20・21図、図版8）

調査区南側やや東寄りのP-12からQ-12グリッドに位置する。地表面から100cm程排土した確認面にある。覆土はHr-PP・C軽石を含む暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（東西方向）2.8m・短軸（南北方向）2.1mを測り、圓丸方形を呈し、主軸方向はN-12°-Eを測る。

床面は確認面から20~30cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で面積は4.78m²を測る。壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピットは北東コーナー壁際から円状・直径約40cm・深約16cmを確認した。

土坑は住居跡中央から円状・直径約60cm・深約19cmを確認した。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し壁外に構築され、右の袖石・燃焼部の支脚石と思われる石を検出した。主軸方向 (θ)=N-98°-Wを測る。覆土は炭化物・焼土粒・わずかHr-PPを含む暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長 (b)=68cm・炊き口部幅 (h)=28cmを測る。

遺物は土師質羽釜・壺、土師器甕・甕片・塊片、須恵器甕片・壺片などを検出した。

9号住居跡（第22図、図版8・9）

調査区南側やや東寄りのO-12・13からP-12・13グリッドに位置する。地表面から90cm程排土した確認面にある。覆土はHr-PP・C軽石を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（東西方向）3.7m・短軸（南北方向）2.6mを測り、圓丸方形を呈し、主軸方向はN-13°-Eを測る。

床面は確認面から25~30cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で締まっている。面積は8.17m²を測る。壁は直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

ピット1（P-1）は北東コーナー壁際から円状・直径約60cm・深約20cm

ピット2（P-2）は南東コーナー壁際から円状・直径約58cm・深約26cmの2ヶ所を確認した。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、竈全体が壁外に張り出して構築している。主軸方向 (θ)=

N-103°-Eを測る。覆土は炭化物・焼土粒・わずかHr-PPを含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=70cm・炊き口部幅(h)=50cmを測る。

遺物は須恵器壺・甕片・塊片・土師質高台付塊・土師器壺・甕片・塊片などを検出した。

10号住居跡（第23図、図版9）

調査区南東隅のQ-15・16からR-15・16グリッドに位置する。地表面から80cm程排土した確認面にある。覆土はHr-PP・C軽石を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。当住居跡は11号住居跡の大半を覆う状態で重複している。新旧関係は住居跡の残り具合などから当遺構が新しいと思われる。

住居跡の形状は長軸（東西方向）3.4m・短軸（南北方向）2.9mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-103°-Eを測る。

床面は確認面から22cm程掘り込んで達する。床面は硬く締まっている。面積は9.16m²を測る。壁は直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、竈全体が壁外に張り出して構築している。主軸方向(θ)=N-108°-Bを測る。覆土は細砂・焼土粒を含む褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=70cm・炊き口部幅(h)=35cmを測る。

遺物は土師器甕片・塊片・須恵器甕片・塊片などを検出した。

11号住居跡（第23図、図版9）

調査区南東隅のQ-15・16からR-15・16グリッドに位置する。地表面から80cm程排土した確認面にある。覆土はHr-PP・C軽石を含む褐色・暗褐色土が堆積している。10号住居跡が大半を覆う状態で重複している。新旧関係は住居跡の残り具合などから当遺構が古いと思われる。

住居跡の形状は長軸（南北方向）2.8m・短軸（東西方向）2.5mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-14°-Eを測る。

床面は確認面から22cm程掘り込んで達する。床面は硬く締まっている。面積は6.87m²を測る。壁は直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、竈全体が壁に張り出して構築している。主軸方向(θ)=N-113°-Bを測る。覆土は細砂・焼土粒を含む褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長(b)=92cm・炊き口部幅(h)=25cmを測る。炊き口部は床面より5cm程掘り下げられている。また両袖石やその補強材の粘土などを検出した。

遺物は土師器壺・甕片・須恵器塊片・壺片・土師質壺片などを検出した。

12号住居跡（第24・25図、図版9）

調査区南東隅のP-15からQ-15グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にあ

る。覆土は粘性を帯び締まりのある褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.4m・短軸（東西方向）2.5mを測り、隅丸方形を呈し、主軸方向はN-16°-Eを測る。

床面は確認面から25~33cm程掘り込んで達する。床面はほぼ平坦で面積は6.98m²を測る。壁はやや直に立ち上がる。ピット・壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央に位置し、両袖がやや住居跡内側に張り出して構築している。主軸方向（θ）=N-92°-Eを測る。覆土は細砂を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。燃焼部に支脚石の穴跡と考えられる梢円状の掘り込み長径25cm・短径18cm・深6cmを確認した。

竈の寸法は全長（b）=60cm・炊き口部幅（h）=40cm・煙道部立ち上がり角度（σ）=45°を測る。

遺物は須恵器高台付壺・壺片・塊片、土師質高台付塊、土師器壺片・坏片・塊片などを検出した。

13号住居跡（第26図、図版10）

調査区南東隅のP-16・17からQ-16・17グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にある。覆土はHr-PP-C輕石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.2m・短軸（東西方向）2.5mを測り、隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-26°-Eを測る。

床面は確認面から30cm程掘り込んで達する。やや凹みがあるが硬く締まっている。面積は6.94m²を測る。壁はやや直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

下記の土坑3, 所を確認した。

（註）深：確認面からの深さ

土坑の名称	形状寸法			所在・その他
	形状	径	深	
D-1	円	約60cm	約15cm	北東コーナー壁際
D-2	円	約56cm	約16cm	南東コーナー壁際
D-3	円	約70cm	約20cm	中央やや西壁寄り

竈は東壁中央に位置し、壁外に構築している。主軸方向（θ）=N-115°-Eを測る。覆土は細砂・焼土粒を含む褐色土・暗褐色土が堆積している。右側袖石や燃焼部から煙道部にかけて掘り込みがあり焼土を確認した。

竈の寸法は全長（b）=85cm・炊き口部幅（h）=42cmを測る。

遺物は土師器壺片・坏片・塊片、須恵器壺片・塊片など数多くを検出した。

14号住居跡（第27図、図版10）

調査区東やや中央寄りのN-17からO-17グリッドに位置する。地表面から50cm程排土した確

認面にある。覆土はHr-PP・C軽石をわずか含み粘性を帯び締まった褐色土が堆積している。

住居跡の形状は長軸（南北方向）3.6m・短軸（東西方向）2.8mを測り、隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-10°-Eを測る。

床面は確認面から23~30cm程掘り込んで達する。床面はやや凹みがあり、竪付近に焼土分布があり硬く締まっている。面積は8.70m²を測る。壁はやや直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竪は東壁中央やや南寄りに位置し、竪外に張り出して構築している。主軸方向（θ）=N-95°-Eを測る。覆土は焼土粒・Hr-PPをわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

竪の寸法は全長（b）=70cm・炊き口部幅（h）=50cmを測る。

炊き口部から燃焼部にかけて緩やかに床面より10cm程下がっている。

遺物は土師器環・甕片などを検出した。

15号住居跡（第28図、図版10）

調査区南東やや南寄りのR-13・14グリッドに位置する。遺構の南は半分程が調査区域外にある。地表面から90cm程排土した確認面にある。覆土は粘性を帶びて締まり、Hr-PP・C軽石をわずか含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

住居跡は東西方向2.5m・南北方向1.3m以南は調査区域外で不明である。形状は北西・北東コーナーが隅丸を呈している。住居跡の主軸は不明である。

床面は確認面から25cm程掘り込んで達し、平らで良く締まっている。面積2.39m²を実測した。壁は、おおむね直に立ち上がっている。

ピット・壁溝は確認されなかった。

竪は確認されなかった。

遺物は土師器塊片・甕片・須恵器甕片・羽釜片などを検出した。

16号住居跡（第29図、図版11）

調査区北側中央やや東寄りのG-14からH-14に位置する。覆土は電柱工事その他で擾乱を受け、住居跡のプランが漸く確認できた遺構である。

住居跡の範囲は長軸（東西方向）2.9m・短軸（南北方向）2.8mを測り、隅丸長方形を呈するものと思われる。主軸方向はN-100°-Eを測る。床面・壁溝の状況は確認できなかった。

土坑は住居跡の東南コーナーから円状・直径約60cm・深約19cm・1所を確認した。竪の推定位置（擾乱を受けて、正確には不明）の南側であることから貯蔵穴と考えられる。

竪は東壁に位置したと考えられるが擾乱を受けて不明である。覆土に焼土・灰・粘土ブロックなどが確認できた。

遺物は出土していない。

(2) 方形遺構

方形遺構 (第30図)

調査区中央のJ-8・9グリッドに位置する。地表面から45cm程排土した確認面にある。覆土はHr-FP・C軽石を含む黒褐色土で堆積している。

遺構の形状は長軸(南北方向)2.7m・短軸(東西方向)2.4mを測り、開丸長方形を呈し、確認面から30cm程掘り込んで床面に達する。床面は平坦である。面積は6.0m²を測る。壁はやや直に立ち上がる。

ピット・壁溝は確認されなかった。

窓・焼土は確認されなかった。

遺物などは出土しなかった。

(3) 溝遺構

1号溝 (第31・32図、図版11)

調査区北西域のB-3・4グリッドから南西域のP-4グリッドに亘って位置する。調査区以北から連なる当1号溝(W-1)の確認面は、B-3グリッドで地表面から約30cmを測り、南下してP-4グリッドで地表面から50cm程排土して確認した。覆土はB軽石・Hr-FP・砾を含む褐色土が堆積している。

W-1溝と重複する遺構

(註) 確認深：重複遺構の地表面から排土して確認した深さ

重複場所(グリッド)	遺構の名称	確認深	重複の状況	新旧関係
B-4	1号住居跡	約35cm	住居跡西壁部をW-1が切除	W-1が新
C-4・D-4	3号住居跡	約38cm	住居跡西壁部をW-1が切除	W-1が新
H-5・I-5	4号住居跡	約54cm	住居跡西壁部をW-1が切除	W-1が新
K-5・L-5	3号溝(W-3)	約50cm	W-3堆積土層をW-1が切除	W-1が新
L-4・5	2号溝(W-2)	30～35cm	W-2堆積土層をW-1が切除	W-1が新

W-1遺構の延長は約57mを測る。

溝の規模はB-3・4グリッド(北側調査区域境)で上幅58cm・底幅40cm・深15cm(底高H-151.200m)・方向はN-170°-Eを測り、断面形は梯形を呈す。H-4グリッド北東隅(調査区中

央)で上幅100cm・深41cm(底高H=150.940m)を測り、断面形は底部が弧を画き全体に三角形を呈す。L-5グリッド(調査区中央やや南寄り)で上幅187cm・深60cm(底高H=150.545m)を測り、方向はここからやや西に向いて変えてN-170°-Eを測り、断面形は全体に三角形を呈す。P-4グリッド(調査区南境)で上幅240cm・深74cm(底高H=150.155m)を測り、断面形は全体に三角形を呈す。W-1の溝底勾配は北から南へ $i = 18.3\% \approx 1/55$ を示す。

遺物は須恵器壺・蓋・甕片・塊片が多く、土師器甕片なども検出している。

2号溝(第31・32図、図版12)

調査区西南域を東西にL-0からL-4グリッドに掛けて位置する。地表面から30~35cmを耕土して確認した。覆土はHr-FP+C軽石・砂を含む褐色土が堆積している。W-1の西側にあり、L-4グリッドでW-1と重複している。新旧関係は土層断面から当溝がやや旧くW-1との流水時期にずれがあると思われる。

当溝遺構(W-2)の延長は約17mを測る。溝の規模はA-A'(西側調査区境L-0グリッド)で上幅220cm・底幅70cm・深38cm(底高H=150.950m)・方向はN-80°-Eを測り、断面形は梯形を呈す。B-B'(L-2グリッド中央から南寄り)上幅150cm・底幅50cm・深70cm(底高H=150.770m)を測り、断面形は矩形底部に上幅80cm・底幅50cm・深10cmの梯形断面を取り付けた二重断面を確認する。L-4グリッドでW-1と重複が堆積土層から窺える。W-1と重複する手前の底高はH=150.755mを測る。

W-2の溝底勾配は西から東へ $i = 11.5\% \approx 1/90$ を示す。W-2の流下方向がW-1の流路となった可能性が考えられる。

遺物は須恵器高台付塊・甕片などを検出している。

3号溝(第31・32図、図版12)

調査区中央やや西のK-10からL-5グリッドにかけて位置する。地表面から50cm程を耕土して確認した。覆土はHr-FPを含む褐色土が堆積している。W-1溝の東側にあり、K-5グリッド付近でW-1と重複している。新旧関係は土層断面から当溝がやや旧くW-1との流水時期にずれがあると思われる。

当溝遺構(W-3)の延長は約21mを測る。L-5グリッド付近でW-1と重複している。

溝の規模はW-3の上幅100cm~80cm・底幅45cm・深31cm(底高H=150.810m)・方向はN-85°-Eを測り、断面形は梯形を呈す。A-A'(K-7グリッド南縁)で上幅110cm・底幅40cm・深31cm(底高H=150.850m)・方向はN-75°-Eとやや北に向いて測り、断面形は梯形を呈す。

B-B'(K-9グリッド中央東寄り)で上幅90cm・底幅60cm・深20cm(底高H=150.800m)・方向はN-75°-Eを測る。

W-3の溝底勾配は西から東へ $i = 2.4\% \approx 1/417$ を示し、溝勾配が緩やかなため流れの方向が

確定できない。

遺物は土師器壺、須恵器蓋片などを検出している。

4号溝（第31・32図、図版12）

調査区南東隅のP-16からS-16グリッドにかけて位置する。地表面から75cm程を耕土して確認した。覆土は細砂を含む褐色土が堆積している。

当溝遺構（W-4）の延長は約10mを測る。溝の方向はP-16グリッド南縁中央から南へE-85°Bを測る。溝の規模はP-16グリッドで上幅65cm・底幅50cm・深13cm（底高H=150.295m）を測り、断面形は梯形を呈す。A-A'（調査区南境のS-16グリッド）で上幅100cm・底幅50cm・深35cm（底高H=150.150m）を測り、断面形は梯形を呈す。

溝底勾配は北から南へi=14.5%→1/69と急勾配を示す。下流側の南方面は調査外であり既に調査済みの熊野谷遺跡調査報告書との照合でもはっきりとしない。

遺物は土師器壺片・壺片、須恵器片などの他縄文前期諸器式縄文土器片一点を検出している。

（4）土坑

1号土坑（第12図、図版11）

調査区北西部のD-2・3からE-2・3グリッドに位置する。地表面から40cm程耕土した確認面にある。覆土はHr-PP+Hr-PA+C軽石を所々に含む黄褐色土・暗赤褐色土が堆積している。

当土坑（D-1）は2号住居跡（H-2）の南壁側部と重複して確認した。重複の新旧関係はD-1によってH-2の竈跡が壊されたと考えられる部分があり、また竈の焼土が残っていると思われる部分もあるなど新旧関係は判然としないが地盤から当遺構が新しいと思われる。

形状は東西方向に長径375cm・短径70cm・深20cmを測り、梢円状である。中程に竈跡と思われる掘り込み深12cm程の凹みを確認している。

遺物は土師器壺など他2号住居跡の竈の構築材と思われる石を検出している。

2号土坑（第30図、図版11）

調査区中央部東南寄りのO-12グリッド上に位置する。地表面から80cm程耕土した確認面にある。覆土はHr-PP+C軽石を含む褐色土が堆積している。

形状は南北方向に長径200cm・短径92cm・深35cmを測り、梢円形である。

遺物は平坦な底部から人頭大の石（長径25cm・短径20cm）・玉石（長径40cm・短径20cm）の2個と須恵器壺、土師質土器・壺片などを検出している。

第4章まとめ

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡は榛名山相馬ヶ原扇状地の端部の八幡川・牛池川に挟まれた位置にあり、北西部が高く、東南部が低い全体的なだらかな地形をしている。周辺は畑を中心の農業地帯である。

近年は住宅地の環境にマッチした田園風景が喜ばれ住宅地化に利用されている。

この調査では、平安時代の遺構が確認されたもので、熊野谷Ⅱ遺跡からは住居跡4軒、熊野谷Ⅲ遺跡からは住居跡16軒（一部不明・範囲のみ含む）、方形遺構1ヶ所、溝遺構4条、土坑2ヶ所を確認した。

1 熊野谷Ⅱ遺跡について

熊野谷Ⅱ住居跡は調査区の東側に位置し、住居跡4軒を確認した。1・2・3号住居跡の形状は隅丸長方形を呈し、竈は東壁中央やや南寄りに作られている。4号住居跡は隅丸長方形で竈は東壁中央やや南寄りで、竈の両袖が住居内に作られている。床面にはピット・壁溝の一部などが見られた。また粘性のある黒褐色土で貼り床も施されており、土坑も確認されている。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、灰釉陶器のはかに鉄製品（刀子）、鐵鎌など、年代的には9世紀後半から10世紀後半までの遺物が検出された。

遺物の特徴により住居跡を分類すると以下のように区分される。

時期	住居跡
9世紀中	
9世紀後半	1号住居跡
9世紀後半～10世紀前半	
10世紀前半	2号住居跡
10世紀前半～後半	4号住居跡
10世紀後半	

3号住居跡からは特定できる遺物が検出できず区分できなかった。

2 熊野谷Ⅲ遺跡について

住居跡は、北西隅の標高151.300mから東南方向標高150.200mの傾斜を持つ、台地の北西隅と南東側に作られている。特に南東寄りに多く作られている。住居跡の形状は、隅丸の方形・長方形

で竈を東壁側に持ち、南壁側竈のものもわずか見られた。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、灰釉陶器など年代は9世紀中頃から10世紀後半にかけての遺物が検出されている。

重複住居は、1・3・4・10・11号住居跡に見られ、1・3・4号住居跡は1号溝と重複し、新旧関係は溝によって住居跡が切られていることから住居跡が古いと思われる。10号住居跡と11号住居跡の重複の新旧関係は、はっきり特定できない。遺物も10号住居跡からは破片のみで、11号住居跡からは10世紀前半代の特徴を持つ遺物がわずか検出されている。

遺物の特徴により住居跡を分類すると以下のように区分される。

時 期	住 居 跡
9世紀中	1・14号住居跡
9世紀後半	11号住居跡
9世紀後半～10世紀前半	3号住居跡
10世紀前半	7号住居跡
10世紀前半～後半	9号住居跡
10世紀後半	4・5・6・8・12号住居跡

13号住居跡は一部破片の特徴により9世紀中～後半の時期と思われる。

2・10・15・16号住居跡からは特定できる遺物が検出できず区分できなかった。

3 方形 遺構

規模は長軸2.7m・短軸2.4mを測り、Hr-PP+Hr-FA+C軽石を含む面で確認したもので、覆土は黒褐色土で堆積している。遺物の出土はなく、時期は不明である。

4 土 坑

1・2号土坑を確認した。1号土坑は2号住居跡と重複し、2号住居跡部分を1号土坑が切っていると思われるため、新旧関係は住居跡が古いと思われる。

1号土坑からは、9世紀前半代の遺物が検出されている。2号土坑からは、10世紀後半代の遺物が検出されている。

5 溝 遺構

4条の溝を検出した。1号溝は1・3・4号住居跡及び2・3号溝と重複関係にある。1号溝によって地層が切られて確認したもので新旧関係は1号溝が新しいと考えられる。4号溝は、南

東側から確認された。

1・2・3号溝は、9世紀中～10世紀前半代の遺物が検出されている。4号溝は、流れ込みによる縄文土器片の他、平安期の遺物片を数点検出した。

おわりに

本遺跡は、平安時代の遺構・遺物がまとまって検出され、付近には縄文時代の遺跡もあるなど、この緑豊かで緩やかな傾斜地には、古くからの集落の発達と人々の生活の一面が垣間みえるように思えます。

調査にあたり関係各機関の方々の御指導に深甚なる感謝を申し上げるものであります。

参考文献

- 清里・陣場遺跡 1981 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 中尾(遺物編) 1984 「中尾遺跡」群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 下東西遺跡 1987 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 芳賀東部田地遺跡 1988 前橋市教育委員会
- 熊野谷遺跡 1989 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

熊野谷Ⅱ遺跡出土遺物観察表

註: 法量 ①口径 ②底径 ③高台径 ④鉄素 ⑤長 ⑥幅 ⑦厚はcm、⑧重をgで表し、()は推定値を示す。

NO	出土場所	種類	法量	粘土焼成	色調	縁形・成形・整形の特徴	遺存確認	回数
1	II-19号 一括	土師器環	①(12.0) ④ 3.1	普通・焼化	褐	底部は平底。体部は緩やかに掏出し口縁部で括れる。口縁部 横ナゲ、体部沿押え。	火候	3
2	II-1-1	陶文土器			褐灰	口縁部、沈縫・斜突文。後期の物と思われる。	小片	3
3	II-2-1 台付壺	須恵器高 台付壺	①(14.5) ④ 5.3	普通・還元	灰	高台は僅かに外傾し厚い。体部は僅かに丸味を持って立ち上 がり口縁部で外反する。底部切削系切り後拵付高台。	口～体部 火候	3
4	II-2-2 台付壺	土師質高 台付壺	①(13.4) ④ 5.6 ④ 5.3	普通・焼化	鈍い縁	底部は付高台。体部は内外面クロロ形、胴部外面へラ削り、 内面へラ削ぎ、黒色。	口縁部一 部分欠損	3
5	II-2-3	刀子	⑥(15.2) ④ 1.1 ④ 0.5 ⑥ 15.83			茎と刀頭同端は欠損、茎部分に木質附着。		3
6	II-2-4	刀子	④ 7.8 ⑥ 5.23			茎部分で断面形は三角形を呈す。		3
7	II-2-5	鉄鎌	④ 14.8 ④ 43.71			鍔身部の片側の粗筋部欠損。茎の先端欠損。鍔部 3.0cm 鍔身部 ④ 6.5 ④ 0.2 茎部 ④ 6.3 ④ 0.5	刃～柄	3
8	II-2-6	土師器底	①(20.0)	普通・焼化	赤褐	口縁部は「コ」の字状を呈し、外腹意図的な横ナゲ。胴部横 へラ削り、内面全面ナゲ。	口～胴部 火候	3
9	II-4-1 台付壺	土師質高 台付壺	①(15.0)	普通・焼化	鈍い縁	底部は付高台。体部は中位で掏出し、口縁部で小さく外反す る。外面クロロ底、底部切り離し不明、付高台底。	底部～体 部火候	3
10	II-4-2	須恵器環	①(11.4) ④ 5.2 ④ 3.4	普通・焼化	灰	底部は平底。体部は掏出焼成。体部クロロ形、底部切削系 切り後拵開拓。	口～体部 火候	3
11	II-4-3 輪塗	須恵器底	①(13.8) ④ 6.8 ④ 4.5	密・還元	灰白	高台部は倒錐形をなし、体部は緩やかに掏出して立ち上がる。 体部は緩やかに掏出し、クロロ形、底部切削系切り後付高 台ナゲ。鍔抜けによる施點。	口縁部少 火候	4
12	II-4-4	土師質羽	①(17.4)	普通・焼化	褐	最大径を背に持ち、口縁部は内腹し短い脚は上向き。口縁部 の外腹に粗筋な指揮痕。内外面ナゲ。	口～胴部 火候	4
13	II-4-5 釜	須恵器底	①(19.0)	普通・還元	灰黄褐	削痕は筒状を呈し、口縁部は内傾する。脚は断面三角形を呈 し、胴部に二条の状線が見られる。内外面ナゲ。	口縁部少 火候	4
14	II-4-6	貨幣	④ 3.34			元祐通寶。鑄造地名: 北宋、鑄造年号1086～1083		4
15	II-4-7	石鏡	④(2.6) ④ 2.0		青灰	先端部一側に凹部 ④ 9.4 ④ 2.55		4
16	IA-42 一括-1 台付壺	須恵器高 台付壺	①(13.0) ④ 5.5 ④ 4.6	普通・還元	灰	底部は付高台、体部は掏出して立ち上がり口縁部で外反する。 クロロ形、底部切削系切り。	火候	4
17	IA-42 一括-2 台付壺	土師質高 台付壺	①(11.8) ④ 7.8 ④ 7.8	普通・焼化	鈍い縁	底部は断面台形状の頗著な貼付高台、体部は内外面クロロ形 形。	底部～体 部火候	4
18	IA-42 一括-3	刀子	④ 5.23 ④ 1.4 ④ 0.4 ④ 9.14			背面部は欠損。刀子の一端と考えられる。		3
19	IA-42 一括-4 台付壺	土師質高 台付壺	④ 8.5	普通・焼化	褐	底部は外傾して低く、高台部は高くしっかりしている。クロ ロ形、底部切削系切り後付高台ナゲ。	口～体部 火候	4
20	IA-42 一括-5	土師器底	① 20.2	普通・焼化	明褐	口縁部は「コ」の字状を呈し、指揮正底、外腹胴部横方向へ ラ削り、内面凹痕ナゲ。	胴部欠損	4
21	IA-42 一括-6	土師器底	④ 4.3	普通・焼化	明褐	底部は小さく、平底。底部方向へラ削り、内面ナゲ、ヘラ底有 り。土質と製法からIA-42-1と同一固体と考えられる。	底部のみ	4

熊野谷Ⅲ遺跡出土遺物観察表

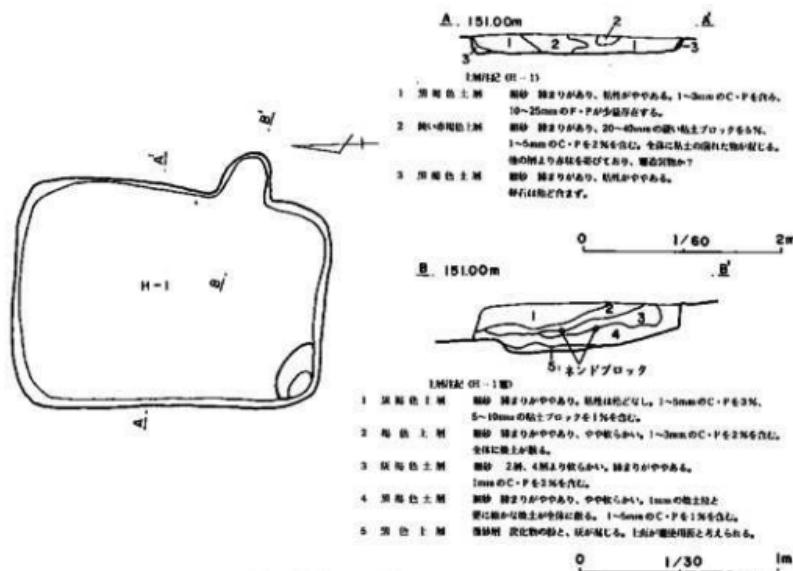
N O 1

註：法量 ①口徑②底径③高台供④高さ⑤幅⑥厚さcm、⑦重さgで表し、()は推定値を示す。

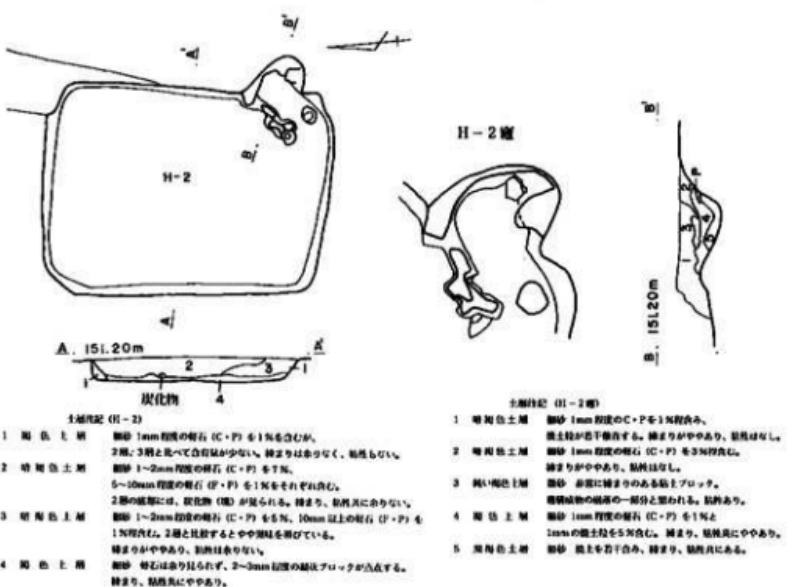
NO	出土場所	種類	法量	胎土焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	運び備考	回数
1	H-1-1	須恵器環	①(12.4) ②(8.3) ③4.8	密・還元	灰	底部は僅かに上底削除。体部は直線的に外傾し、内外面ロクロ整形。底面回転み切り。	分残	1 3
2	H-1-2	須恵器盤	①(16.2) ②(10.4) ③3.2	普通・還元	灰白	高台部は細く開き、体部は直線的に外反し、内外面ロクロ整形。底面回転ナメ。外周自然輪。	分弱残	1 3
3	H-3-1	須恵器盤	①(19.8) ②3.8 焼径 2.8cm	普通・還元	灰白	天井部は平坦、周縁より緩く側曲し外傾する。底部は垂直。縁は宝珠形をなす。内外面回転ナメ、貼付焼。	分残	1 3
4	H-3-2	須恵器高台付塊	①(11.6) ②(5.7) ③4.7	密・還元	青灰	高台部は外傾し体部は緩やかに側曲する。ロクロ整形、付高台外周輪。	分残	1 3
5	H-3-3	須恵器盤	①(12.0)	密・還元	青灰	体部は上位で突出する。内外面ロクロ整形。	弱・弱残	1 3
6	H-3-4	須恵器高台裏	②18.8 残存高 28.0cm	粗・還元	灰白	上底削除の平底から大きく内側し体部へ立ち上がる。体部は表面はのがれにより平行叩き目が部分的にしか見られない。内面底部へ体部下半ナメ(軟質須恵器の裏)	弱・底部残 残	1 3
7	H-4-1	須恵器盤	焼径 4.2cm	密・還元	灰	天井部は平底で、焼みの中央部が窪み、貼付。ロクロ整形、外周自然輪。	蓋の一部	
8	H-5-1'~1'	須恵器環	①(12.8) ②8.6 ③4.2	密・還元	灰白	高台部は側面削をなし、体部緩やかに側曲して立ち上がる。底面回転み切り後付高台、施輪。	口縁部94 残	1 4
9	H-5-1	土師質羽釜	①(18.3)	普通・酸化	灰褐	口縁部は内傾し跨は水平に張り出す断面三角形。口縁・胸部内外面ナメ。 胸部最大径 (21.3) cm	口・胸部 残	1 3
10	H-5-2	須恵器高台付塊	①(13.6) ②(7.4) ③4.3	密・還元	灰	高台部は側面削をなし、体部緩やかに側曲して立ち上がる。底面回転み切り後付高台、施輪。	另強残	1 4
11	H-5-3	土師質高台付塊	①15.6 ②8.6 ③6.4	粗・酸化	黄褐	高台部は高く、「ハ」の字状に開き、断面跡形。体部は外反しながら口縁部に至る。内外面ロクロ整形、底面回転ナメ、付高台ナメ。	完形	1 4
12	H-5-4	須恵器高台付塊	①12.7 ②8.4 ③4.8	普通・還元	灰	底部は付高台、体部は直線的に外反し歪んだ口縁部に至る。体部内外面ナメ、底面回転み切り後付高台ナメ。	完形	1 4
13	H-5-5	土師質高台付塊	①12.8 ②5.6 ③5.4	粗・還元	外面純 黄褐色 内面青灰	高台部は僅かに外傾し厚い。体部は直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。内外面ロクロ整形、底面回転み切り繋ぎ付高台。	完形	1 4
14	H-5-6	土師質羽釜	①21.9 ②(5.9) ③26.5	普通・酸化	褐	底部は小さい。口縁部は内傾し跨は水平に張り出す。口縁部胸部とも上位内面ナメ、胸下半部へ割り。胸部最大径 23.4cm	分残	1 4
15	H-6-1	須恵器高台付塊	①(17.2) ②(8.7) ③5.2	密・還元	灰	高台部は側面削をなし、体部は緩やかに側曲して立ち上がる。底面回転み切り後付高台、施輪、重ね燒痕。	口・体部 弱残	1 4
16	H-7-1	土師質環	①(12.2) ②3.3	普通・酸化	赤褐	体部は周曲削まで器内は厚い。口縁部内面ナメ、体部外周へ割り。	口・体部 弱残	1 4
17	H-8-1	土師質羽釜	①(18.0) ②(13.7) 胸部最大径 (23.4)	普通・酸化	純い黄 褐	口縁部は短く内傾し上端で直立する。跨は上向きに張り出し、胸部は緩やかに内傾する。 内面回転ナメ。	口・胸部 弱残	1 5
18	H-8-2	土師質羽釜	①(19.2)	普通・酸化	純い褐	胸部は内傾し、口縁部は短く外反する。跨は上向きに張り出す。 内面回転ナメ、胸貼付。	口・胸部 弱残	1 5
19	H-8-3	土師質環	①(13.4) ②(8.6) ③2.5	密・酸化	褐	底部は平底、体部は緩やかに外傾して聞く。口縁部は内面積みナメ、体部底部ともう割り。	分弱残	1 5
20	H-8-4	土師質環	①(12.0) ②(8.6) ③(6.7)	普通・酸化	純い褐	口縁部は短く外反する。体部は内傾し、底部は器内が厚い。口縁部内面ナメ、胸部絞りヘラ割り。	分残	1 5

柱・梁端部 ①口内側面の複合部材の端部を切削すれば、②蓋をして差し、③は固定盤を外す。

NO	出力場所	種類	法 量	筋 幅	筋・深元	筋・浅元	筋・底元	筋・側面	筋・底面	筋・底面	筋・底面
21	H-9-1	拘束環外	①(0.1.4)	② 6.5	筋・深元	筋・浅元	筋・底元	筋・側面・底面	筋・底面	筋・底面	筋・底面
22	H-9-2	土密環高	③ 2.4	7.3	筋高・筋幅	筋幅・筋幅	筋幅	筋幅・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
23	H-9-3	土密環外	①(18.4)	筋幅 5.7cm	筋・側面	筋	筋	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
24	H-9-4	土密環外	①(11.1)	② 7.5	筋高・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
25	H-11-1	土密環外	①(12.2)	② 6.0	筋高・筋幅	筋幅・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
27	H-12-2	土密環高	④ 3.9	6.4	筋・深元	筋・浅元	灰白	筋幅は不安定な平面。体幅は筋幅を中心に内側する。口縫合と体幅は筋幅ナメ。体幅は筋幅を中心に内側する。口縫合と体幅は筋幅ナメ。	一筋	一筋	一筋
28	H-14-1	土密環外	①(12.3)	③ 13.3	筋高・筋幅	筋幅・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
29	D-1-1	土密環外	①(13.2)	② 1.1	筋高・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
30	D-2-1	拘束環外	①(12.3)	② 6.8	筋高・筋幅	筋幅・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
31	D-2-2	拘束環外	③ 12.5	④ 8.9	筋高・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
32	H-1-1	拘束環外	①(14.6)	② 9.6	筋高・筋幅	筋幅・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
33	H-1-2	拘束環外	筋幅 2.0cm		筋高・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
34	H-1-3	拘束環外	①(12.4)	② 1.2	筋高・筋幅	筋幅・筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
35	H-2-1	拘束環外	① 11.8	③ 6.6	筋・深元	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
36	H-3-1	土密環外	①(13.4)	② 4.6	筋・側面	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅
37	H-4-1	拘束環外			筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅	筋幅

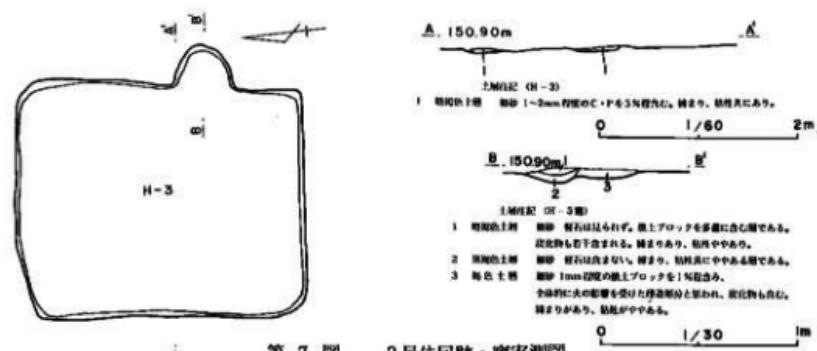


第5図 1号住居跡・遺構実測図

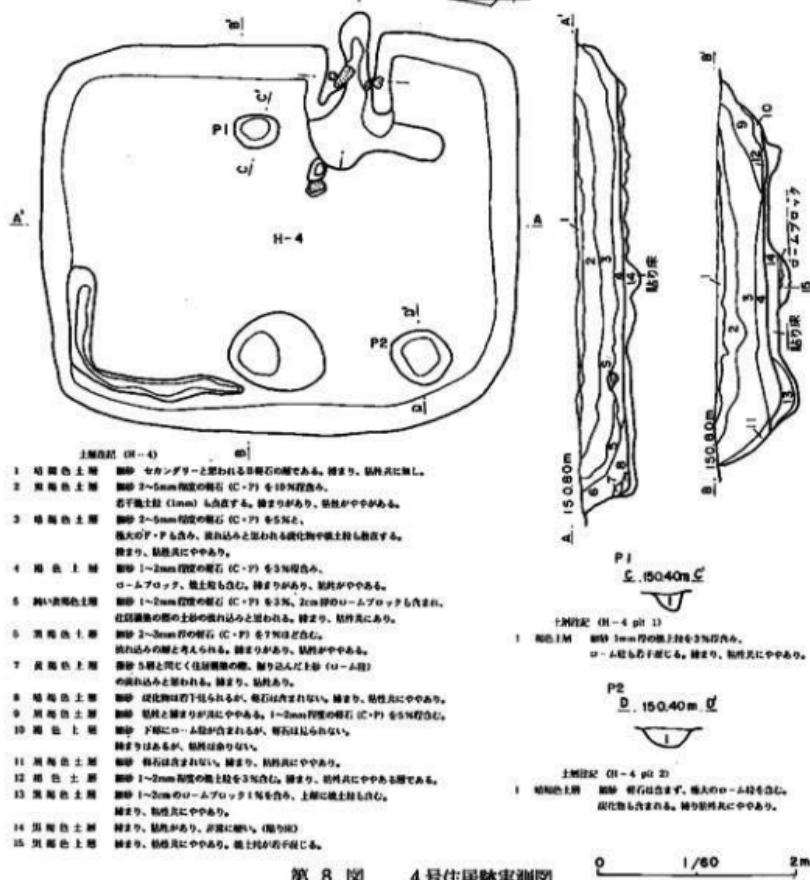


第6図 2号住居跡・遺構実測図

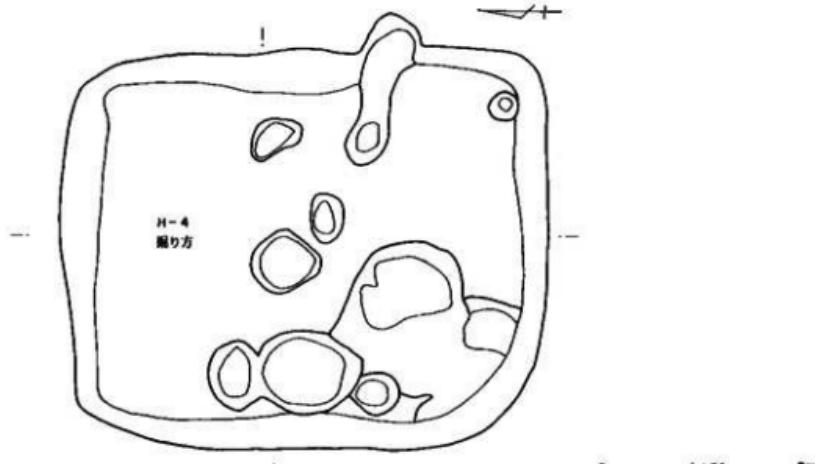
遺構実測図 2



第7図 3号住居跡・窓実測図



第8図 4号住居跡実測図



第9図 4号住居跡掘り方実測図

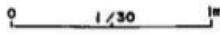


上側作記 (H-4層 W-2)

- 1 黒褐色土層
縫まりあり。硬い。(2は1層より若干軟らかく)
砂粒、粗粒なし。1~5mmC + P2%。
- 2 灰褐色土層
縫まりあり。硬い。砂粒、粗粒などなし。1~3mmC + P5%。
地上部に若干軟らかくなる。
- 3 灰褐色土層
縫まりあり。硬い。砂粒、粗粒などなし。1~8mmC + P7%。
地上部・地上部が若干軟らかくなる。
- 4 灰色土層
縫まりあり。非常に硬い。砂粒若干あり。1~2mmC + P1%。
- 5 灰褐色土層
縫まりあり。軟かい。1~2mmC + P2%。全体に地上部が軟らかくなる。
- 6 灰褐色土層
縫まりあり。やや硬い。砂粒、粗粒あり。
全体が堅めている。軟らかくない。
- 7 灰褐色土層
縫まりやすい。やや硬い。
砂粒 1mmC + P1%。全体に地上部が軟らかくなる。
- 8 灰色土層
縫まりあり。やや軟らかい。
砂粒、粗粒あり。1mmC + P1%。化成鉄錆、地上部が軟らかくなる。
- 9 灰褐色土層
縫まりあり。やや軟らかい。
砂粒、粗粒があり。全体が堅めている。
- 10 灰褐色土層
縫まりあり。やや軟らかい。
砂粒、粗粒あり。全体が軟らかくなる。
- 11 灰褐色土層
縫まりがあるが、軟らかい。
砂粒、粗粒あり。底付地なし。
- 12 灰褐色土層
縫まりがあるが、軟らかい。
砂粒、粗粒ややあり。1mmC + P1~2%。地上部若干軟らかくなる。
- 13 灰褐色土層
縫まりややあるが、軟らかい。
砂粒、粗粒ややあり。20mm以上。

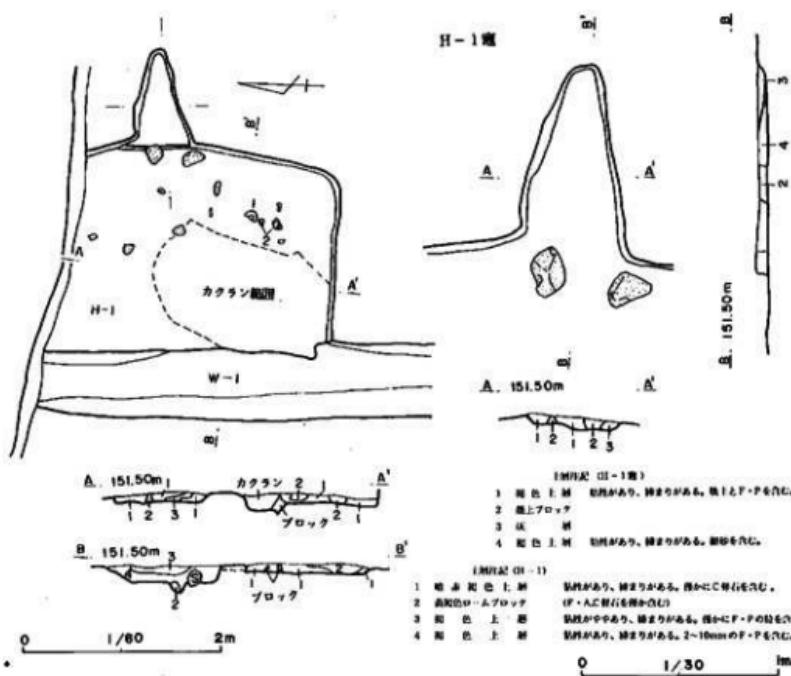
第10図

4号住居跡窓実測図

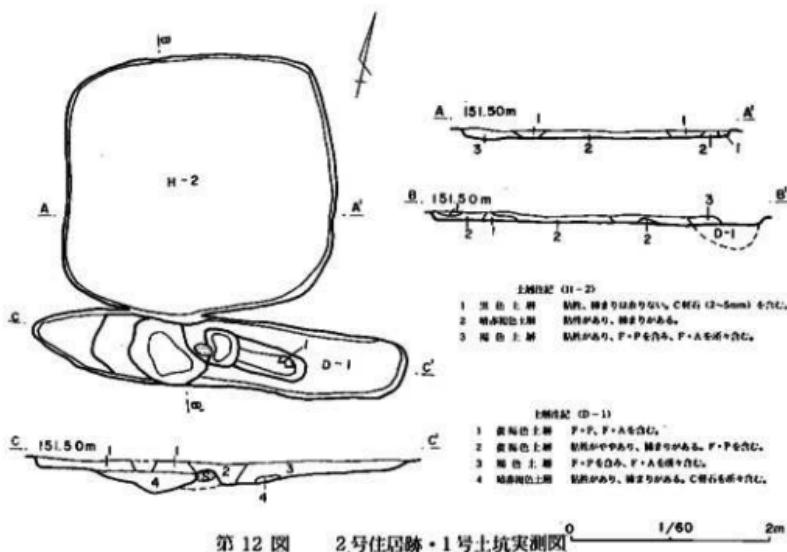


- 1 灰褐色土層
縫隙部で、全般的に赤味を帯びている。
硬石 (C + P) を7%程度含む。縫まりあり。粗粒なし。
- 2 灰褐色土層
縫隙 1mm程度の硬石 (C + P) を3%程度含む。
1層と同様に粗粒地盤の所である。
縫まりが非常に多い。粗粒もややある。
- 3 灰褐色土層
縫隙 1~2mm程度の硬石 (C + P) を3%程度含む。
縫まり。粗粒非常にややある。
- 4 灰色土層
縫隙がある。ロームブロックも若干含まれる。
縫まりややあり。粗粒なし。
- 5 灰色土層
表面に砂粒がある。ローム C + Pを1%程度含む。
縫隙でいい。
- 6 灰色土層
縫隙があるが、ややかく。1mmのC + Pを1%程度含む。
1~10mmの地盤ブロックを若干含む。

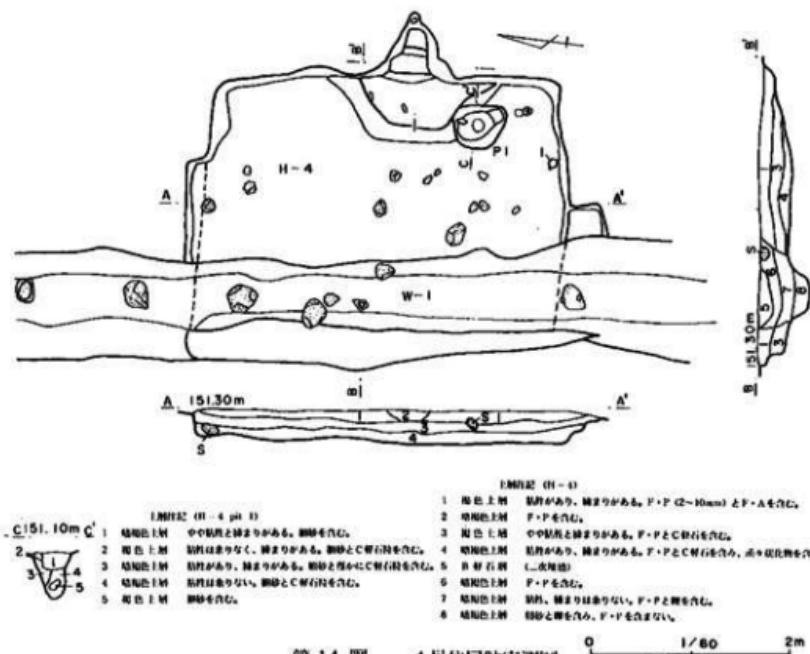
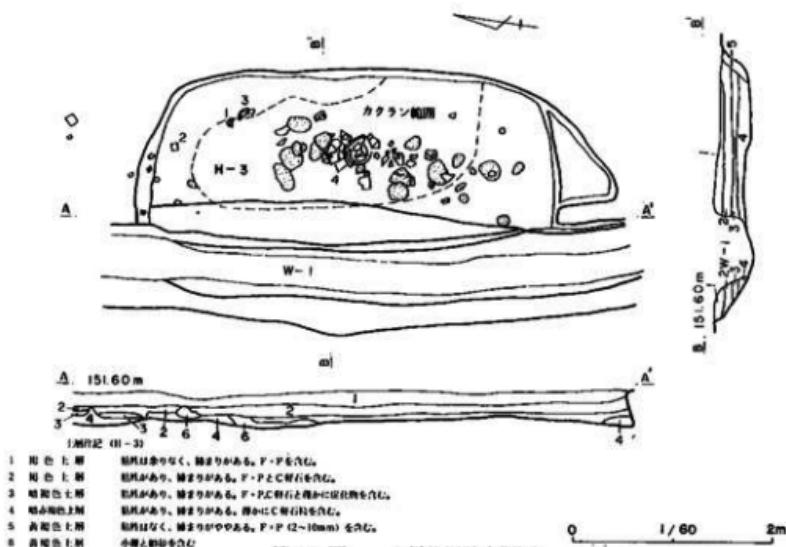
遺構実測図 4



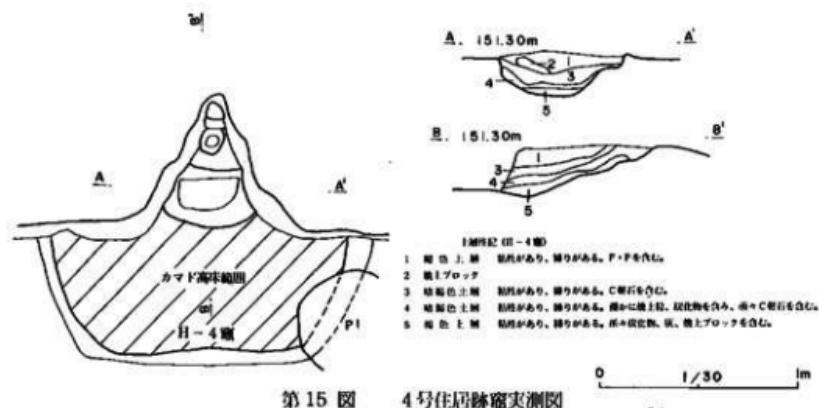
第 11 図 1号住居跡・竪実測図



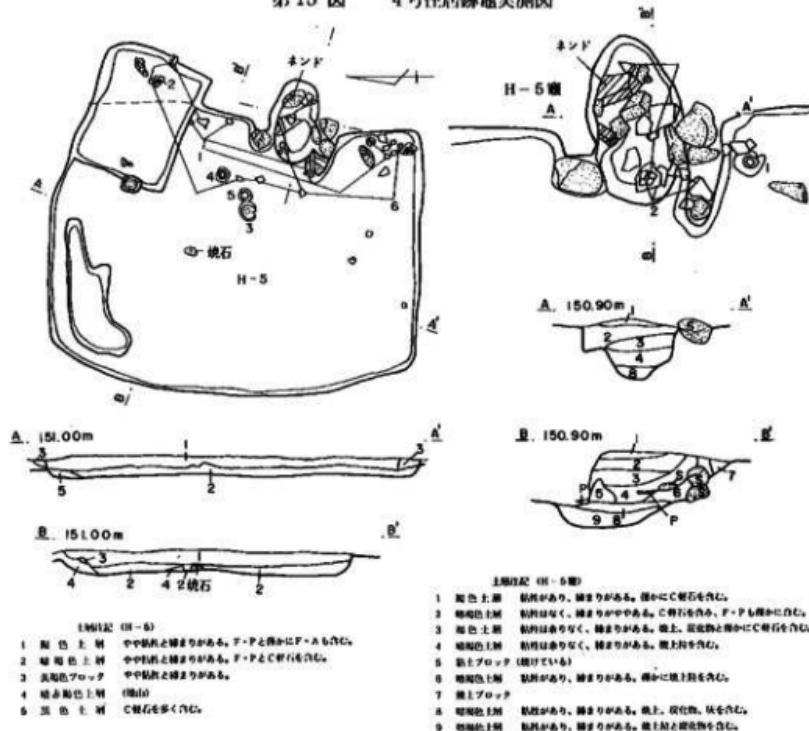
第 12 図 2号住居跡・1号土坑実測図



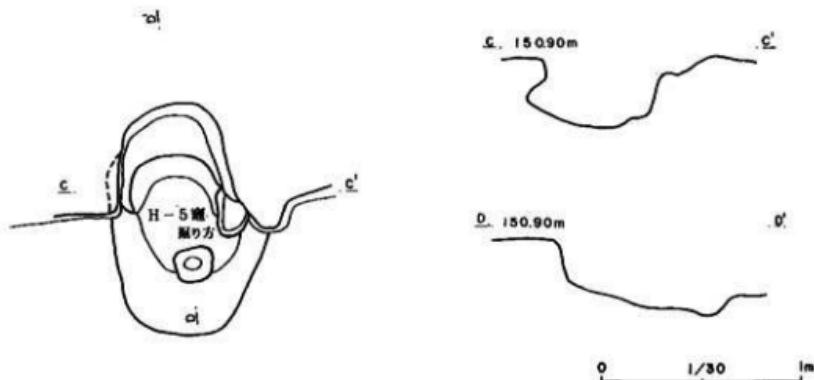
遺構実測図 6



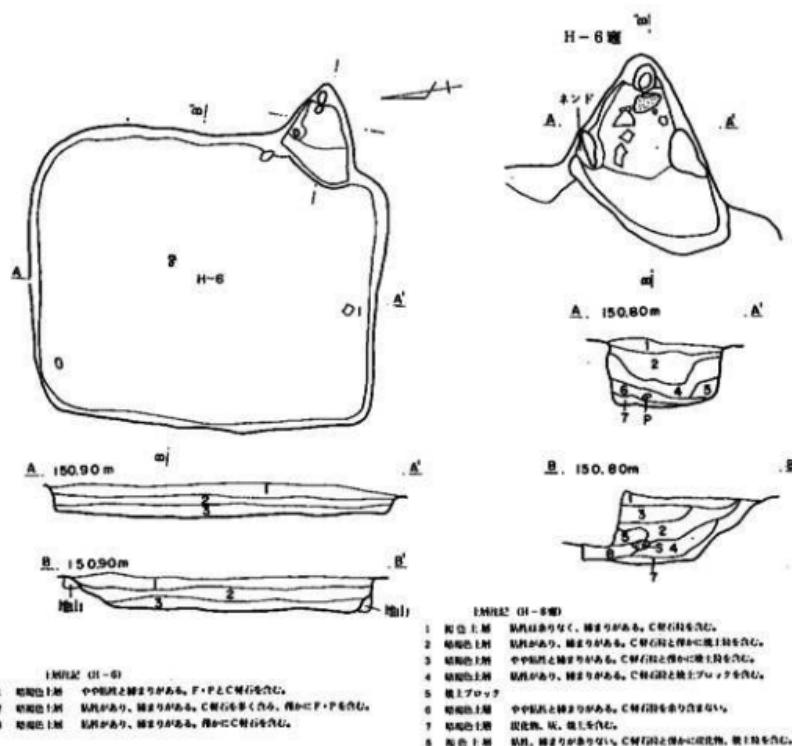
第15図 4号住居跡実測図



第16図 5号住居跡・竪実測図

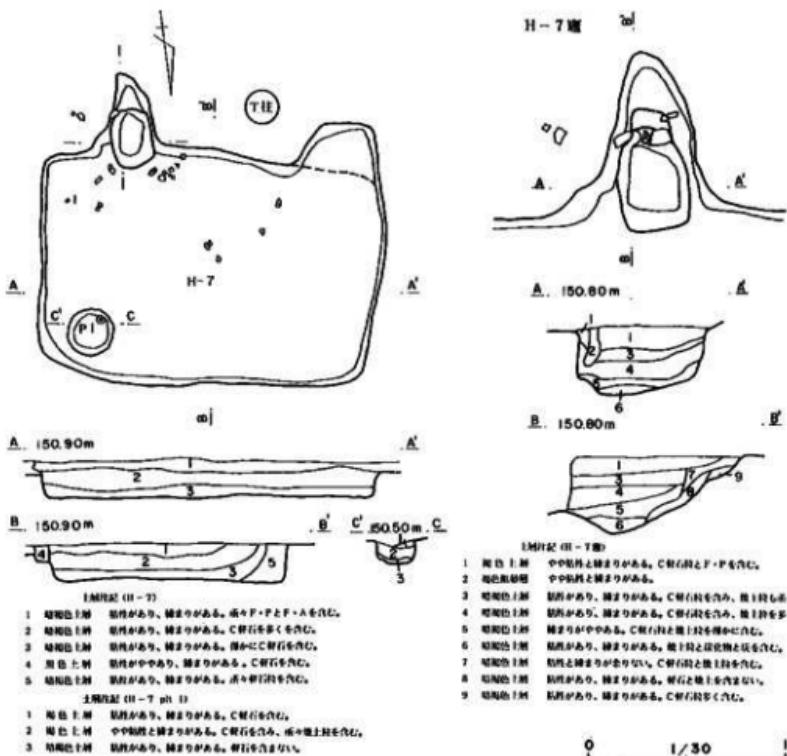


第17図 5号住居跡エレベーション実測図

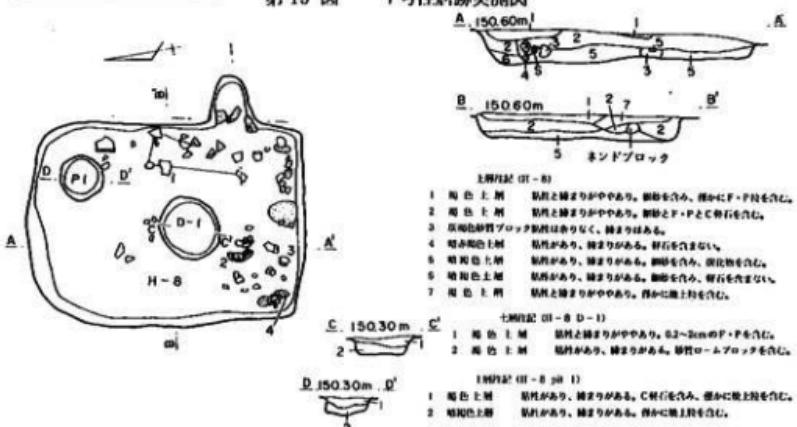


第18図 6号住居跡・窓実測図

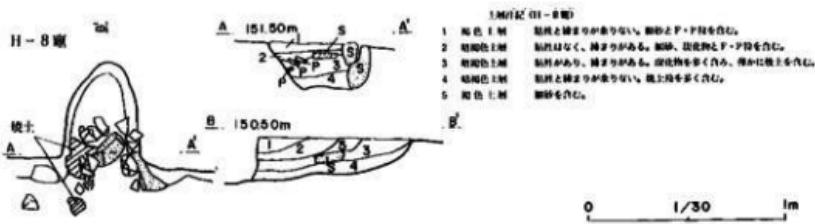
遺稿実測図 8



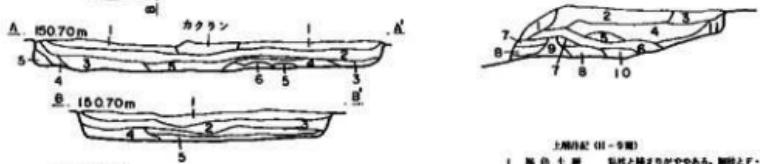
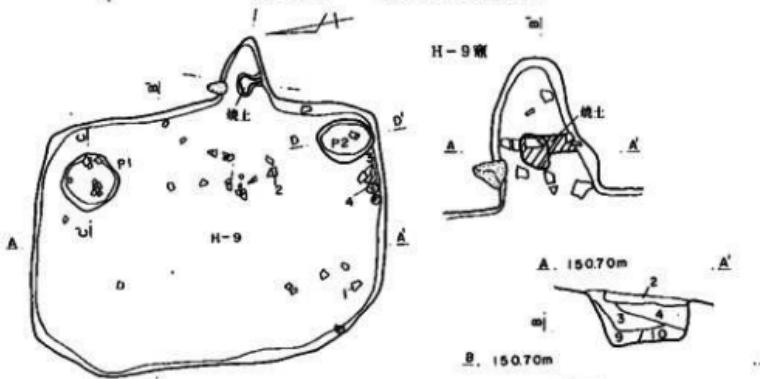
第 19 回



第 20 圖 8 呎作業跡 察測圖



第 21 図 8 号住居跡発掘実測図



- 上層地図 (H-9)
1. 黄色土層 剥離はなく、陥没がある。僅かに E-P を含む。
 2. 黄褐色土層 剥離はなく、陥没がある。砂利を含む。僅かに地上と E-P を含む。
 3. 黄褐色土層 剥離があり。陥没がある。砂利と植生を作成。
 4. 黄褐色土層 剥離があり。陥没がある。炭化物を多く含む。僅かに地上を含む。
 5. 黄褐色土層 剥離があり。陥没がある。砂利を作成。僅かに C-P と炭化物を含む。
 6. 黄褐色土層 剥離があり。陥没がある。砂利と植生を作成。
 7. 黄褐色土層 剥離があり。陥没がある。砂利を作成。僅かに E-P と炭化物を含む。
 8. 黄褐色土層 剥離を含み、地上ブロックを含む。砂利があり。陥没がある。砂利頭を含む。
 9. 黄褐色土層 剥離を含み、僅かに植生を作成。

C. 150.40m C C'

2 3

上層地図 (H-9 pit 1)

1. 黄色土層 剥離と陥没があり。砂利、P・P、砂利、炭化物を含む。
2. 黄褐色土層 剥離と陥没があり。砂利、P・P とローム頭を含む。
3. 黄褐色土層 剥離があり。陥没がある。砂利頭を含まない。

D. 150.40m D'

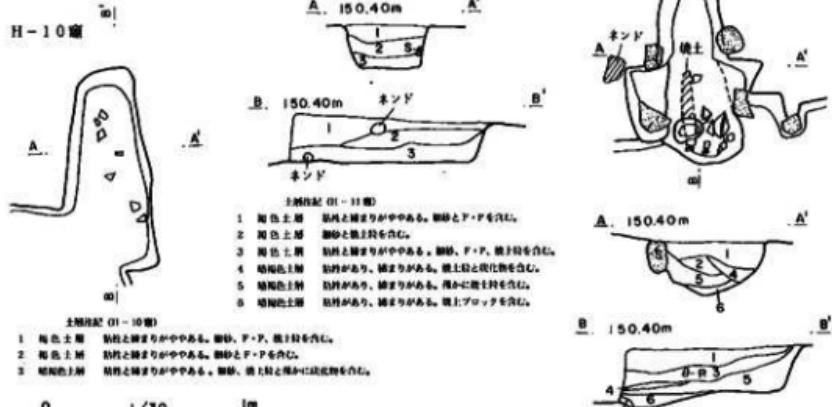
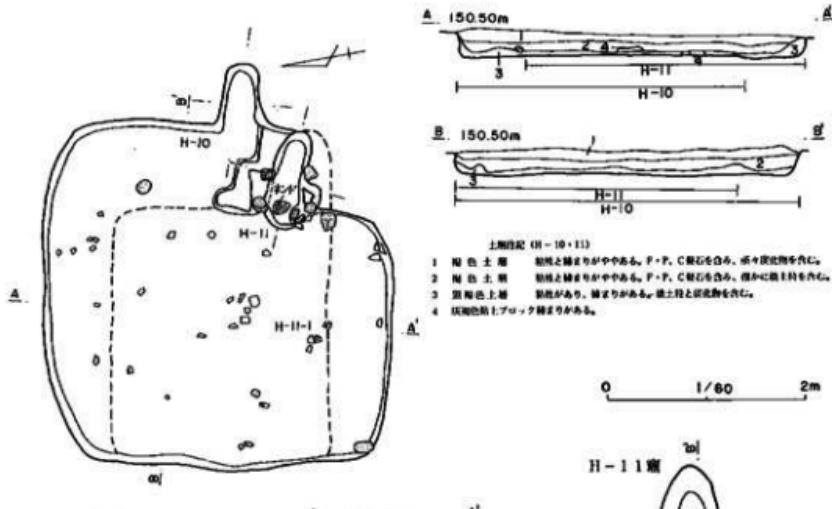
2 3 4

上層地図 (H-9 pit 2)

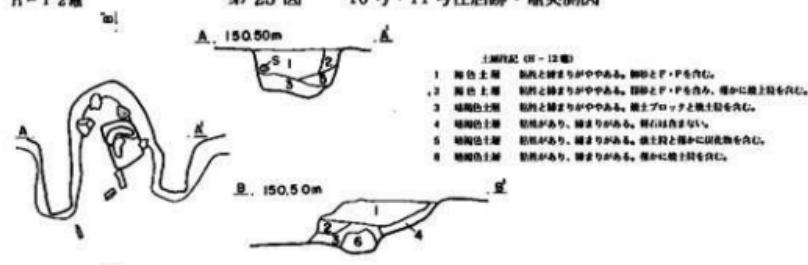
1. 黄色土層 砂利があり。陥没がある。P・P と僅かに炭化物を含む。
2. 黄褐色土層 砂利があり。陥没がある。砂利頭を含む。
3. 黄褐色土層 砂利があり。陥没がある。砂利頭を含まない。
4. 黄褐色土層 砂利があり。陥没がある。僅かに地上とローム頭を含む。

0 1/60 2m 第 22 図 9 号住居跡・発掘実測図 0 1/30 1m

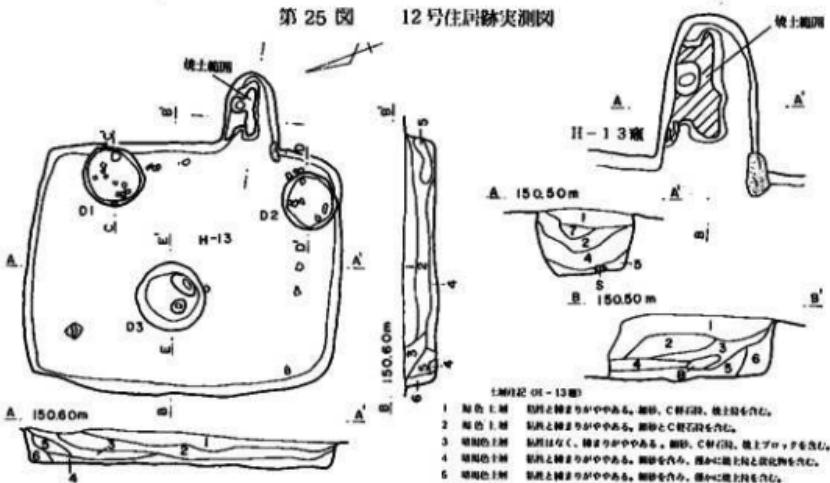
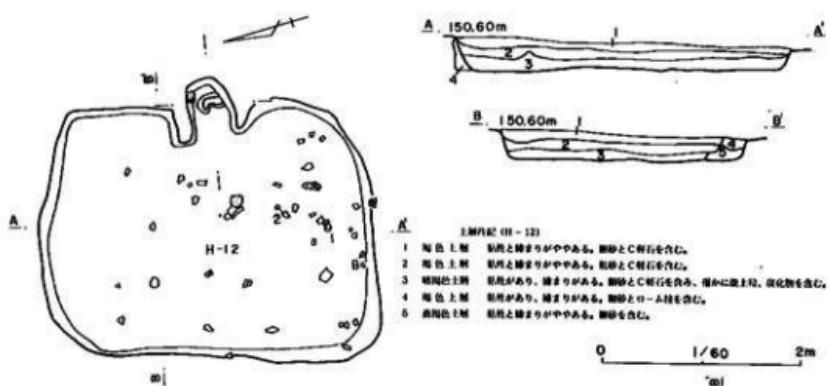
遺構実測図 10



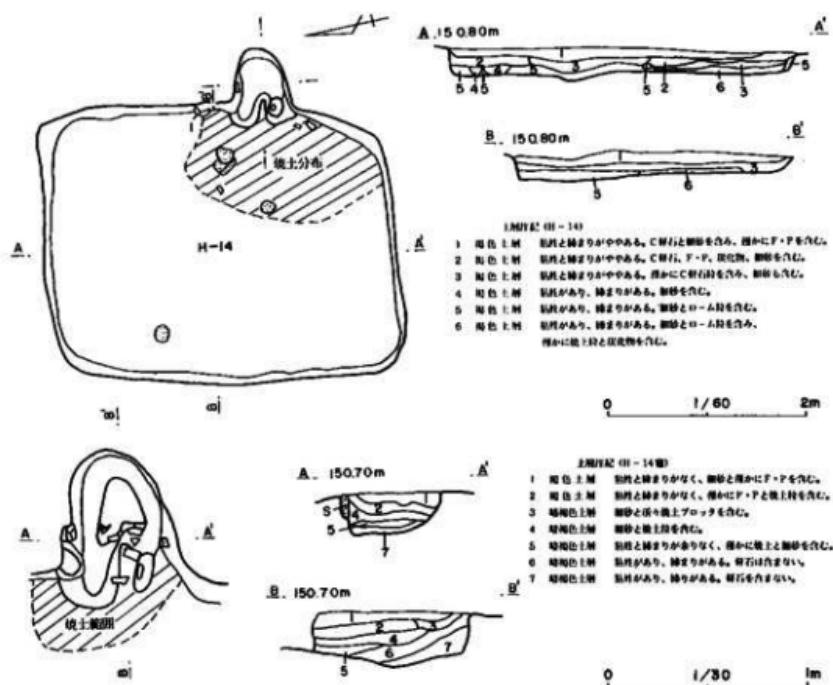
第 23 図 10号・11号住居跡・痕跡測図



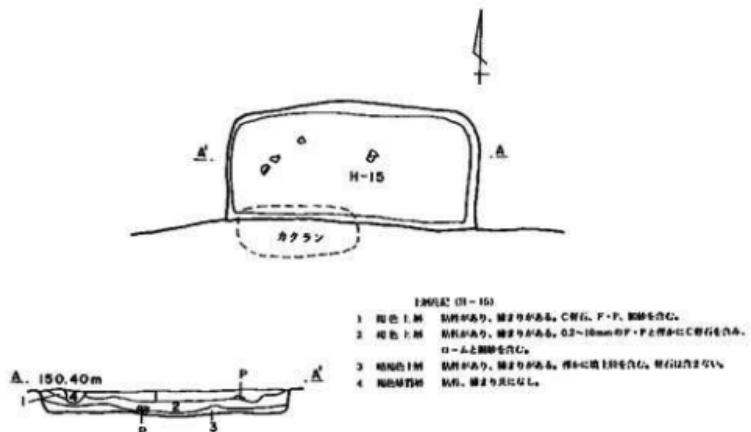
第 24 図 12号住居跡痕跡測図



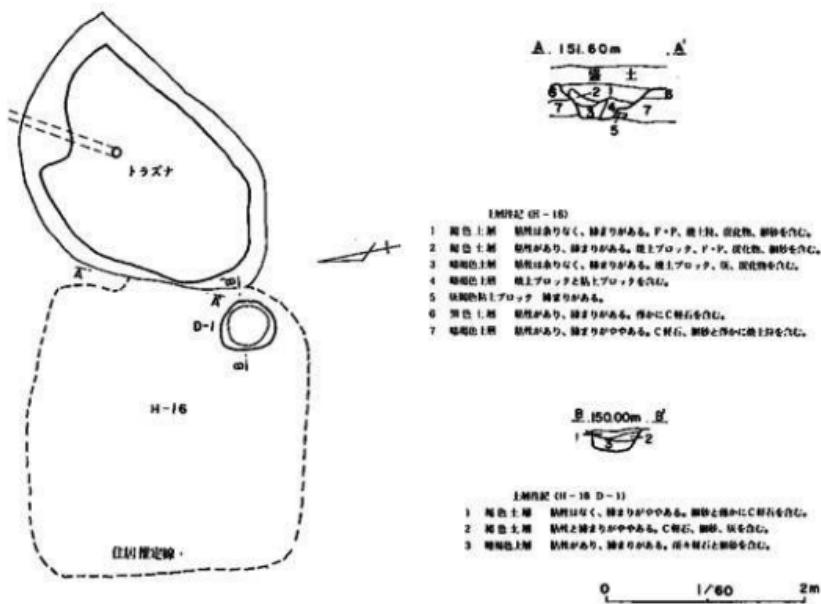
遺構実測図 12



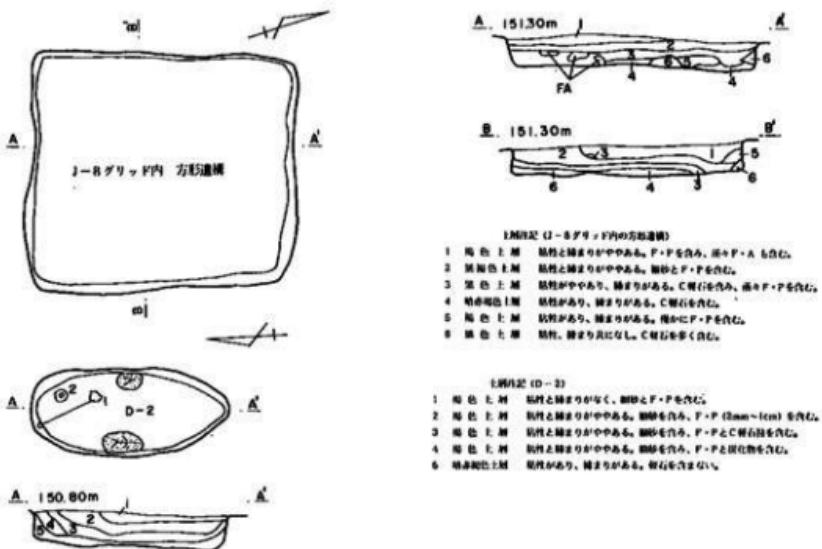
第 27 図 14 号住居跡・竪穴測図



第 28 図 15 号住居跡火災測図

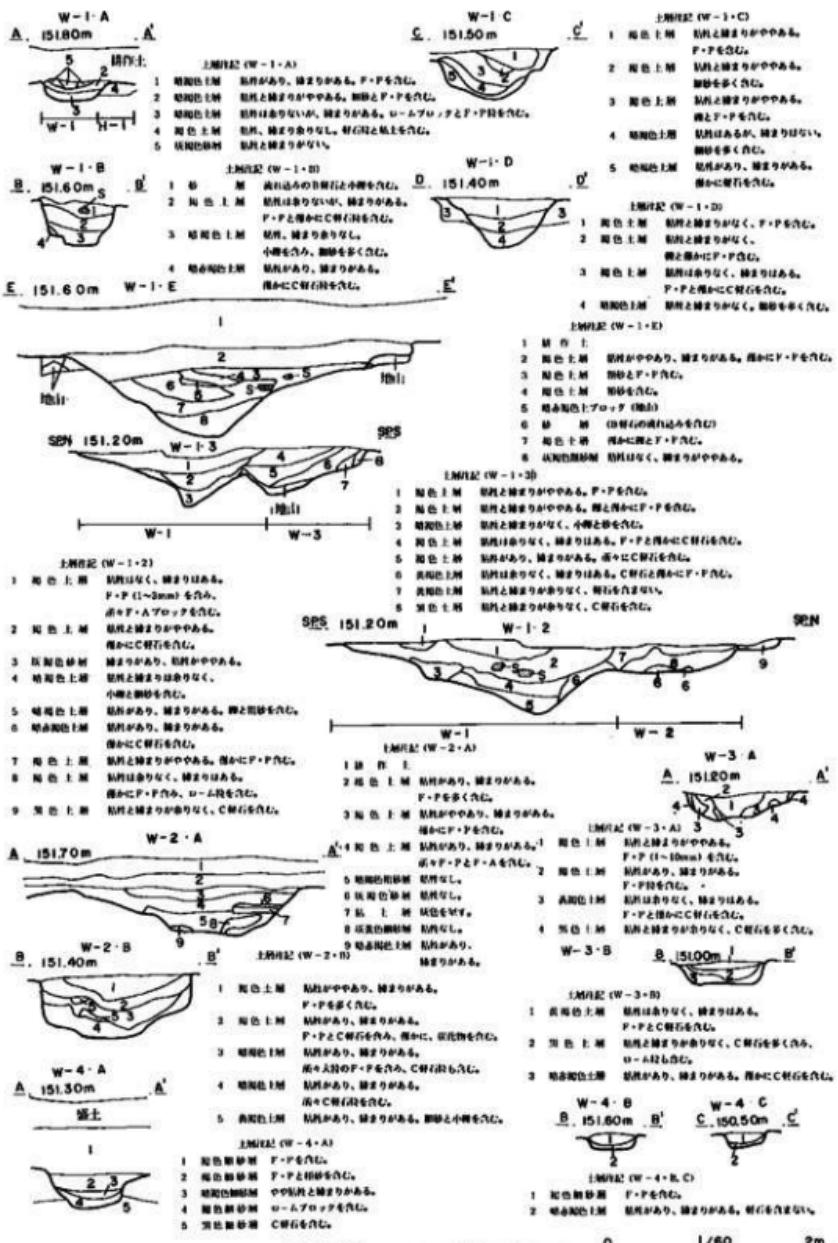


第 29 図 16号住居跡実測図



第 30 図 方形遺構・2号土坑実測図

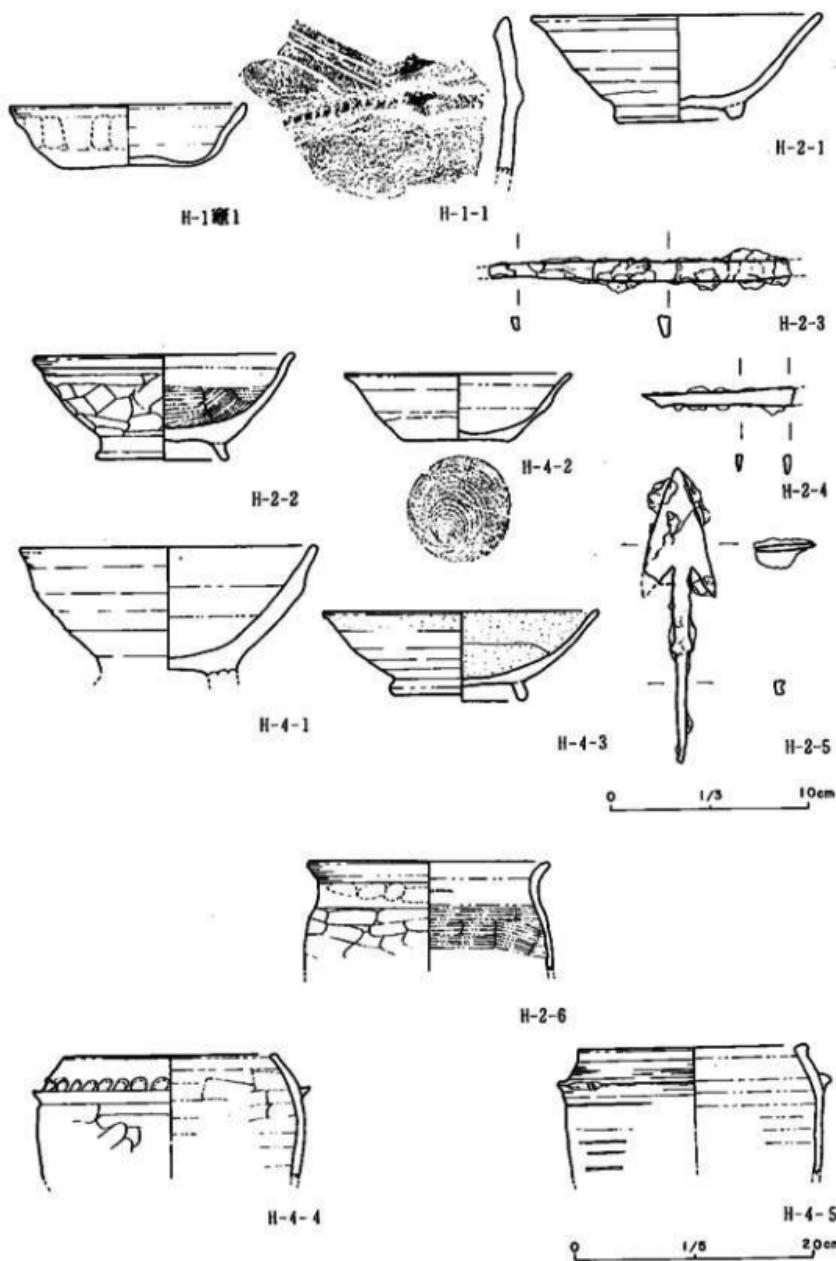
遺構実測図 14



第31図 1~4号溝跡実測図

0 1/60 2m

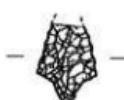
遺物実測図 1



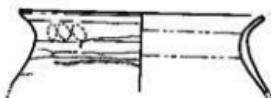
遺物実測図 2



H-4-6



H-4-7



一括 5

0 1/1 2.5cm



一括 6

0 1/5 2.0cm



一括 1



一括 2



一括 4

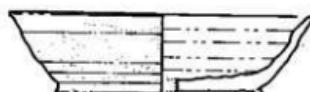


一括 3

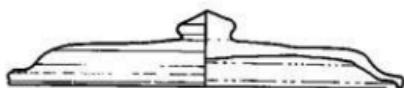
0 1/3 10cm



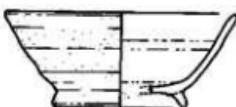
H-1-1



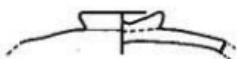
H-1-2



H-3-1



H-3-2



H-4-1



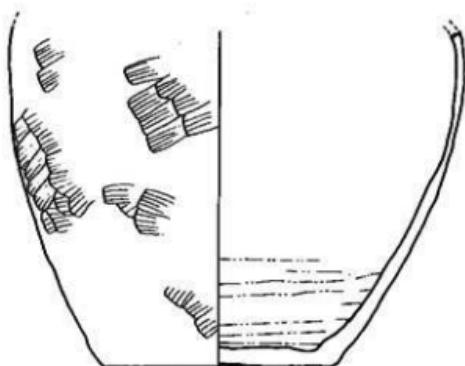
H-5-2



0 1/5 10cm



H-3-3



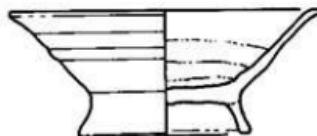
H-3-4



H-5-1

0 1/5 20cm

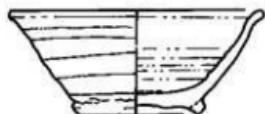
遺物実測図 4



H-5-3



H-5-4



H-5-5



H-5-6

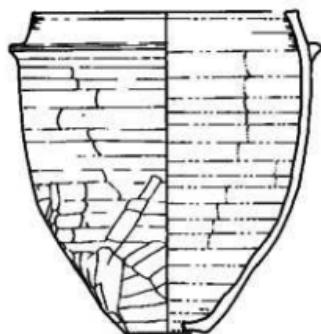


H-6-1

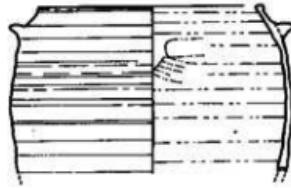


H-7-1

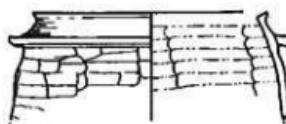
0 1/3 10cm



H-5-6



H-8-1

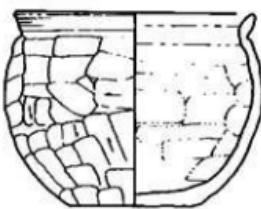


H-8-2

0 1/5 20cm



H-8-3



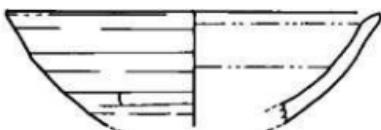
H-8-4



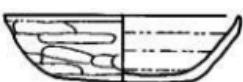
H-9-1



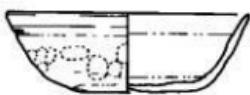
H-9-2



H-9-3



H-9-4



H-11-1



H-12-1



H-12-2

0 1/3 10cm

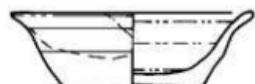
遺物実測図 6



H-14-1



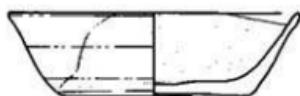
D-1-1



D-2-1



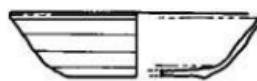
D-2-2



W-1-1



W-1-2



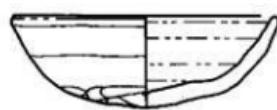
W-1-括



W-2-1



W-4-括



W-3-1

0 1/3 10cm



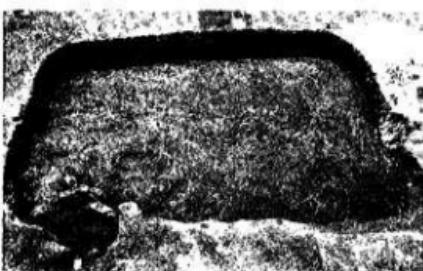
1号住居跡



1号住居跡窓



1号住居跡窓セクション



2号住居跡



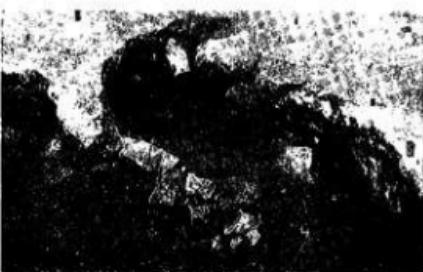
2号住居跡出土遺物状況



2号住居跡出土遺物状況



2号住居跡出土遺物状況

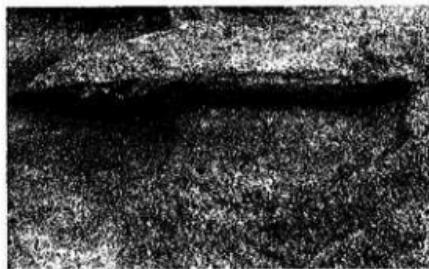


2号住居跡窓

図版 2



3号住居跡



3号住居跡断面



4号住居跡



4号住居跡断面



4号住居跡出土遺物状況



4号住居跡断面



出土遺物状況



1号～4号住居跡全景



H-1 瓢1



H-1-1



H-2-1



H-2-2



H-2-3

H-2-4 一括 3

H-2-5



H-2-6



H-4-1

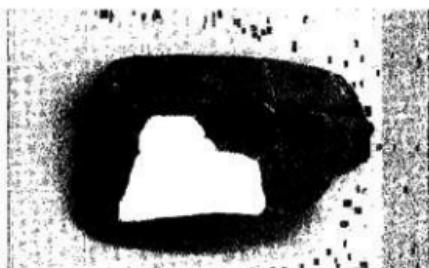


H-4-2

图版 4



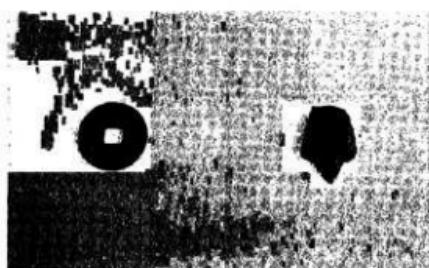
H - 4 - 3



H - 4 - 4



H - 4 - 5



H - 4 - 6

H - 4 - 7



一括 1



一括 2



一括 4



一括 5

一括 6



調査区 全景



調査前現況（南西から望む）



調査前現況（南から望む）



作業風景



作業風景

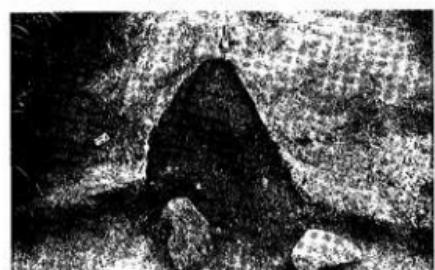
图版 6



1号住居跡



1号住居跡出土遺物状况



1号住居跡窓



2号住居跡



3号住居跡



3号住居跡出土遺物状况



3号住居跡出土遺物状况



4号住居跡



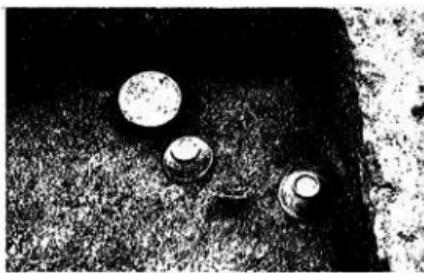
4号住居跡出土遺物状況



4号住居跡窓



5号住居跡



6号住居跡出土遺物状況



5号住居跡窓



5号住居跡出土遺物状況

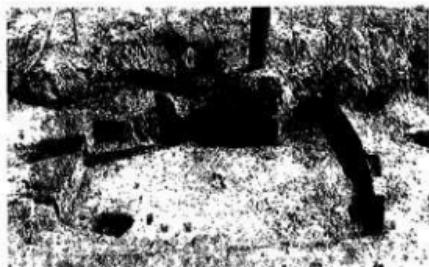


6号住居跡



6号住居跡窓

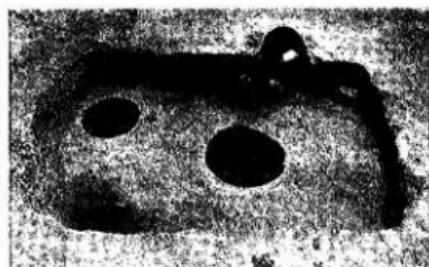
图版 8



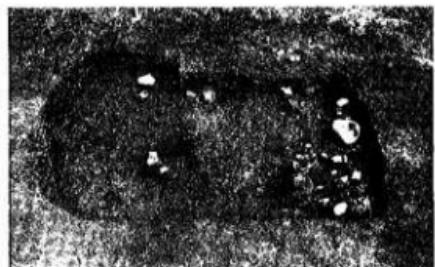
7号住居跡



7号住居跡窓



8号住居跡



8号住居跡出土遺物状況



8号住居跡出土遺物状況



8号住居跡窓



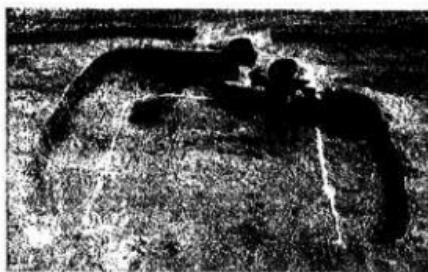
9号住居跡



9号住居跡出土遺物状況



9号住居跡窓



10・11号住居跡



10号住居跡出土遺物状況



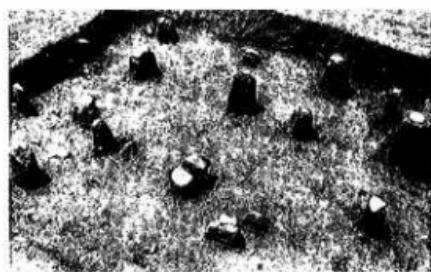
11号住居跡出土遺物状況



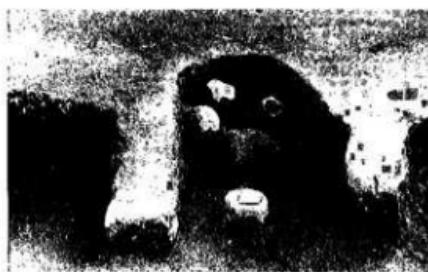
10・11号住居跡窓



12号住居跡



12号住居跡出土遺物状況



12号住居跡窓出土遺物状況



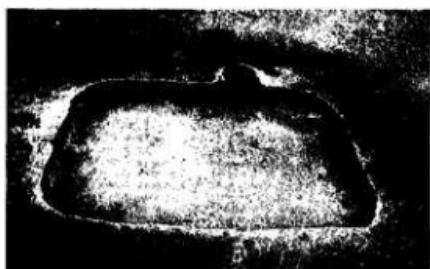
13号住居跡



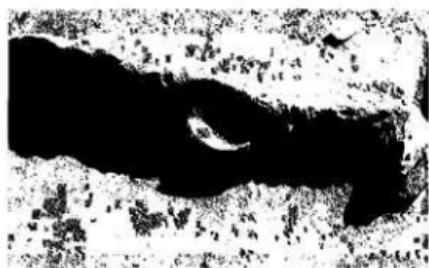
13号住居跡出土遺物状況



13号住居跡窓



14号住居跡



14号住居跡出土遺物状況



14号住居跡窓



15号住居跡



15号住居跡出土遺物状況



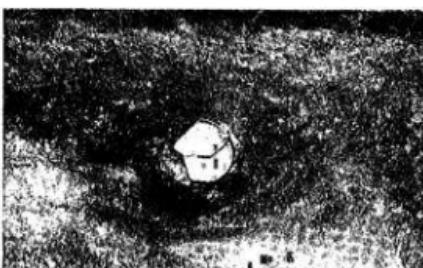
16号住居跡推定範囲



16号住居跡貯藏穴状況



2号住居跡 1号土坑出土遺物状況



1号土坑出土遺物状況



2号土坑出土遺物状況



1号溝全景（南から望む）



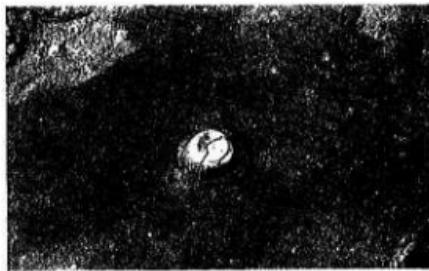
1号溝全景（北から望む）



1号溝出土遺物状況



2号溝全景（東から望む）



2号溝遺物出土状況



1・2号溝（東から望む）



1・3号溝（西から望む）



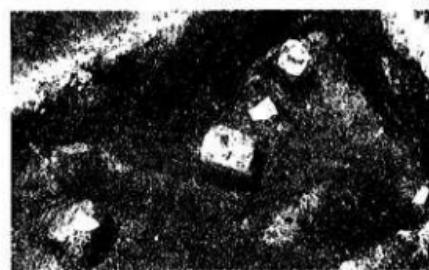
3号溝全景（西から望む）



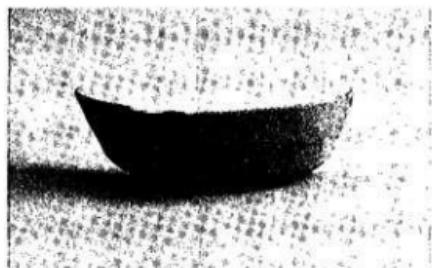
3号溝遺物出土状況



4号溝全景（北から望む）



4号溝遺物出土状況



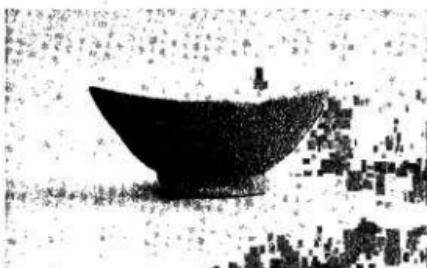
H-1-1



H-1-2



H-3-1



H-3-2



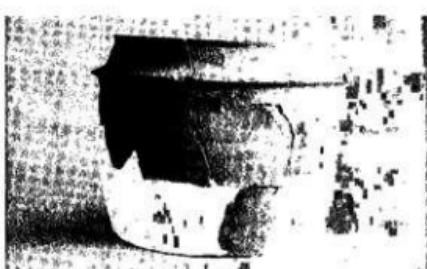
H-3-3



H-3-4

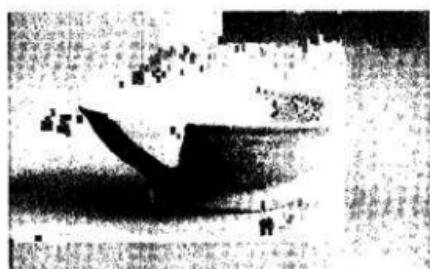


H-4-1



H-5-1

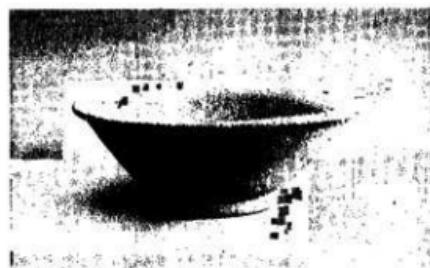
図版 14



H - 5 - 2



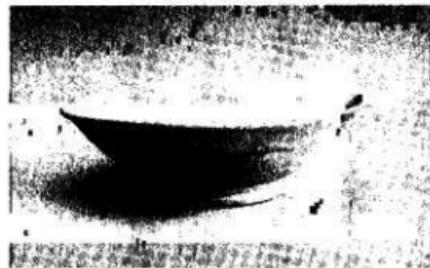
H - 5 - 3



H - 5 - 4



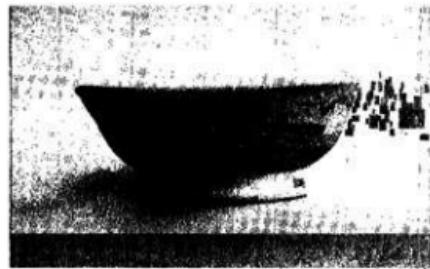
H - 5 - 5



H - 5 - 6



H - 5 - 6



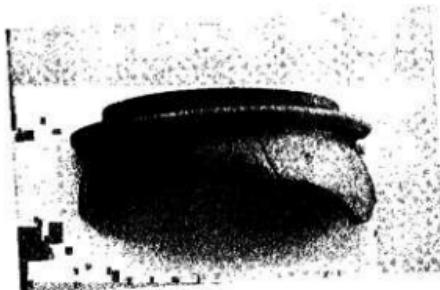
H - 6 - 1



H - 7 - 1



H-8-1



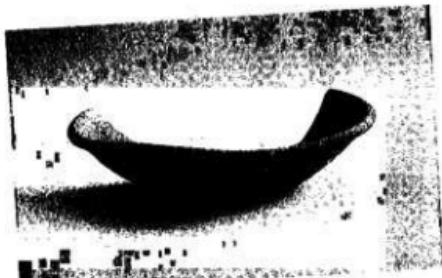
H-8-2



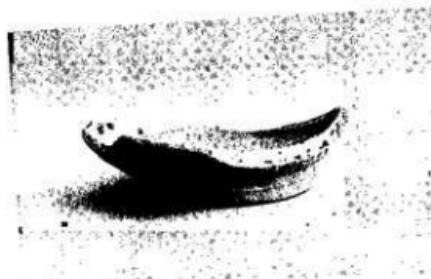
H-8-3



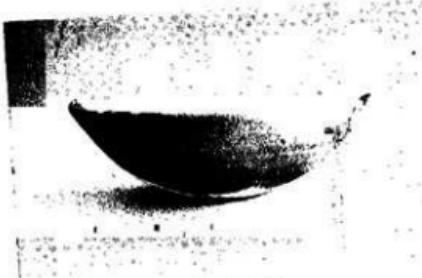
H-8-4



H-9-1



H-9-2

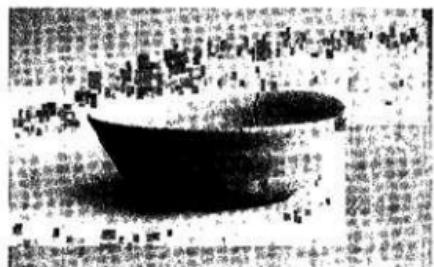


H-9-3



H-9-4

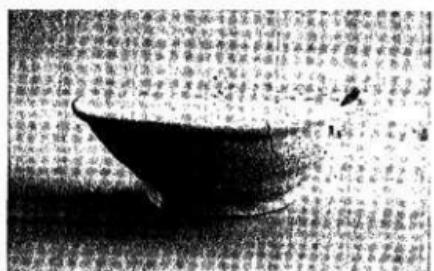
図版 16



H-11-1



H-12-1



H-12-2



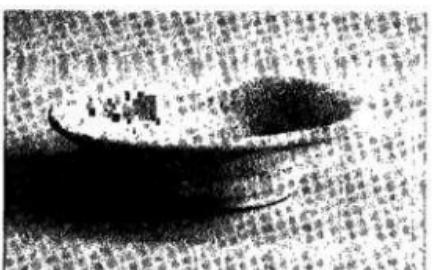
H-14-1



D-1-1



D-2-1



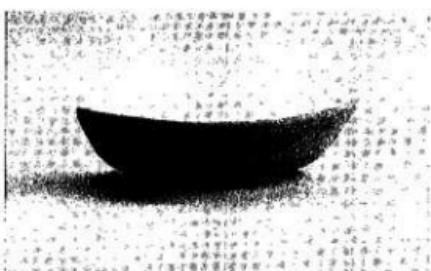
D-2-2



W-1-1



W-1-2



W-1-括



W-2-1



W-3-1



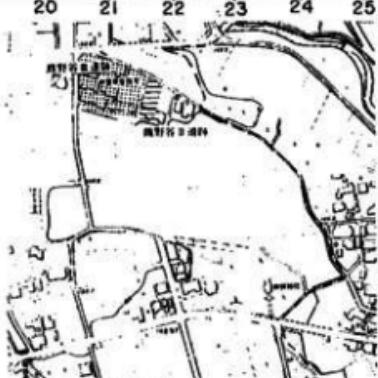
W-4-括

熊野谷Ⅲ遺跡全

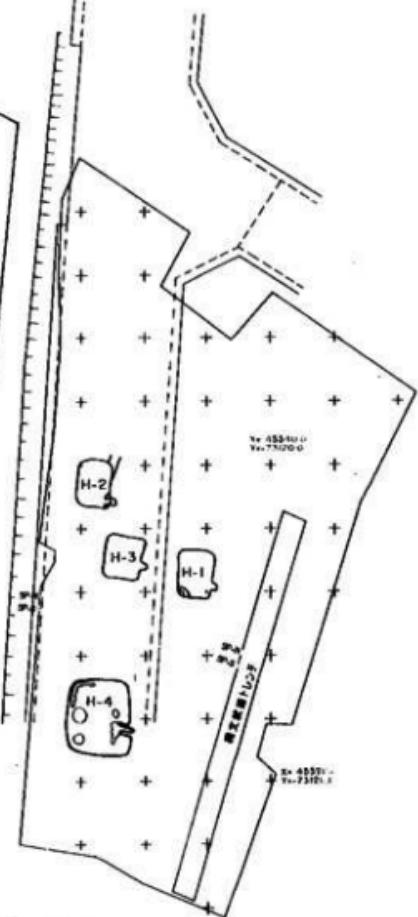


本平面図(2A-42)

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27



位置図 S=1:7000



図

熊野谷 II 遺跡全体平面図 (1A-42)

Tx 455400.0
Ty 731400.0

浦里前原住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡

平成3年3月25日 印刷
平成3年3月31日 発行

発行者 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664番地の4

編集 スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1

印刷 有限会社サクラヤ印刷所
前橋市石倉町一丁目5番7号
